文化学園リポジトリ
Academic Repository of BUNKA GAKUEN
服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学
Bunka Gakuen University
文化ファッション大学院大学
Bunka Fashion Graduate University
文化服装学院
Bunka Fashion College
文化外国語専門学校
Bunka Institute of Language

Title	日本語を母語としない現職日本語教師を対象とした研修プログラム : 実践報告
Author(s)	福田, 由美; 角本, 浩美; 杉田, 昌俊
Citation	文化外国語専門学校紀要 24(2011-02) pp.55-124
Issue Date	2011-02-01
URL	http://hdl.handle.net/10457/1254
Rights	

https://bunka.repo.nii.ac.jp/

(紀要第 24 号)

実践報告

日本語を母語としない現職日本語教師を対象とした研修プログラム

日本語教師養成科　専任教授　**福田由美**
専任講師　**角本浩美**
専任講師　**杉田昌俊**

(2010.9.1 受)

要　旨

日本語教師養成科では、2007 年 1 月から毎年 1 回韓国釜山の高等学校および中学校の日本語科目担当教員のための短期研修を行った。本稿は、その実践報告と、日本語を母語としない現職日本語教師を対象とした日本における短期研修のモデルコースの提案である。

＜キーワード＞　日本語教師　現職者研修　短期研修　教師養成
外国人日本語教師

1．はじめに
2．研修対象者および研修日程
2－1．対象者
2－2．日程および授業時間数
3．実践報告
3－1．カリキュラム及び授業に関して
3－1－1．カリキュラム作成方針及び手順
3－1－2．コース前アンケート
（1）「コース前アンケート」の方法と内容
（2）研修生の教育活動状況

（３）研修生の日本語能力
（４）研修に対する希望
（５）研修生が抱えている問題
３－１－３．各年のカリキュラムの作成の経緯
（１）研修 2007
（２）研修 2008
（３）研修 2009
３－１－４．カリキュラムについて
（１）各領域の目的
（２）各領域の授業科目
（３）実施授業科目についての内容及び、その変化と理由
３－１－５．研修生の抱える諸問題への対応
（１）研修生の年齢、教育歴に関すること
（２）日本語のレベル差に関すること
（３）その他
３－２．コース評価
３－２－１．目的
３－２－２．内容
３－２－３．結果考察
３－３．研修担当教員の所感
３－３－１．研修生の研修姿勢に関して
３－３－２．クラス運営に関して
３－３－３．研修生の日本語のレベル差に関して
３－３－４．カリキュラム、授業科目に関して
３－４．今後に向けて
４．日本における短期研修のモデルコースについて
４－１．対象者
４－２．授業目的
４－３．期間及び授業時間数
４－４．授業内容及び科目
５．おわりに

注
資料

1．はじめに

文化外国語専門学校（以下「本校」とする）は、2006年9月、韓国釜山市教育委員会（以下「主催者」とする）が主催する釜山地区の中等教育機関（中学校・高校）の現職日本語教師を対象とした短期研修[注1]の依頼を受けた。

本校には日本語を母語としない外国人を対象とした日本語教師養成科があり、1年間900時間をかけて、卒業後すぐに教壇に立つことができ、習得した知識や技能を生かしながら、自律的に成長し続ける能力を備えた日本語教師を育てている。この科に入学する学生の多くは日本語教授経験のない学生であるが、中には既に母国で日本語教師として仕事をした経験のある者、現職を中断して留学する者が含まれている。そのため、カリキュラムは、そのような学生にも対応できるものとなっている。

しかし、現職日本語教師に対する短期の研修を行うことは初めてであったため、本校教員がこれまでに蓄積してきた経験や知識と、研修生のニーズ、研修主催者の希望や研修目的を調査した結果を照合しながら、日本語教師養成科担当の教員が中心となって、新たなカリキュラムを考え、研修を実施することとなった。

第1回目の研修は2007年1月から約3週間行われ、その後2年（2008年、2009年）続けて、研修の依頼を受けることとなった。第2回目以降の研修については、過去の研修の状況及び研修生からの意見と主催者からの依頼内容を踏まえて、実施する研修内容を改訂し、より良いもの、研修生の満足度が高まるものを目指して実施した。

本稿では、2007年、2008年、2009年の3回の研修について、そのカリキュラムおよび研修の内容を中心に報告し、最後に海外の（日本語を母語としない外国人）現職日本語教師の日本における短期研修のモデルコースを提案する。

２．研修対象者および研修日程

２－１．対象者

研修対象者（以下「研修生」とする）は、韓国釜山市の中学校および高等学校において日本語の授業を担当している現職の教員である。

各年の研修生は、以下の通りである。

2007 年　23 名（及び指導管理教員１名）

2008 年　20 名（及び指導管理教員１名）

2009 年　13 名（及び指導管理教員１名）

研修生の年齢は各研修とも 20 代後半から 50 代後半(平均すると 40 代後半)で、日本語教育歴、教員経験年数、日本語学習歴などはさまざまであった。(詳細は資料１－２参照)

指導管理教員は、自身も日本語を教える教員であるが、研修開始以前から、本校の研修担当教員である教師養成科の教員（以下「研修担当教員」とする）に研修内容に関する具体的な提案を行い、研修担当教員と意見を交換し、実際の研修内容を検討する。研修中は研修の授業に参加しながら研修生と研修担当教員の間に立って研修全体が支障なく進むようさまざまな活動を担うなど、研修遂行に大きな役割を果たす教員である。[注2]

２－２．日程および授業時間数

授業開始および終了日程、授業時間数は主催者らの依頼に従った。

第１回短期研修（以下「研修 2007」とする）

日　　程　　2007 年１月 10 日～ 2007 年２月２日

授業時間数　　50 分授業　×　90 コマ（１日４～５コマ）[注3]

第２回短期研修（以下「研修 2008」とする）

日　　程　　2008 年１月８日～ 2008 年２月１日

授業時間数　　50 分授業　×　78 コマ（１日３～６コマ）

第３回短期研修（以下「研修 2009」とする）

日　　程　　2009 年１月６日～ 2009 年１月 23 日

授業時間数　　50 分授業　×　52 コマ（１日４コマ）

３．実践報告

３－１．カリキュラム及び授業に関して

３－１－１．カリキュラム作成方針及び手順

本研修のカリキュラムは、2007年1月に研修生の受け入れを開始して以来、研修生のニーズを第一に考え、より満足度の高いものを目指して作成してきた。

そのため、研修生に対する研修前のアンケート調査（以下「コース前アンケート」とする）と研修終了後のアンケート調査（以下「コース評価」とする）を毎年実施し、その結果をもとに、約３週間という短い期間で、研修生が帰国後実際に役立てられるものをできるだけ多く効率よく獲得できるということを念頭に置いて、主催者側から提示された授業時間数の範囲で、毎年新しいカリキュラムを作成し、授業内容を刷新している。

３－１－２．コース前アンケート

以下「コース前アンケート」について、方法と内容及び、重要な項目については、その結果をまとめて述べる。

（1）「コース前アンケート」の方法と内容

「コース前アンケート」は、研修生の属性やニーズを知り、適切なカリキュラムを作成するということを第一の目的として行ったものである。

このアンケートは、研修生決定の連絡を受けると同時に、指導管理教員を通じて各研修生に送り、研修生が個々に記入したものを直接研修担当教員に送るという手順で行った。

アンケートの質問は以下の６種である。

①研修生自身の情報を問うもの（年齢、性別など）

②研修生の日本語能力に関するもの

③研修生の現在の日本語教育活動状況に関するもの（教師歴、日本語教育歴も含む）

④研修への希望

⑤現在抱えている問題点

⑥研修生の日本語・日本文化・日本に対する興味、関心に関するもの

また、研修生の日本語能力を知る目的で、研修に関連した内容で、短い文章を

書く部分も設定した。(アンケート項目の詳細は、資料１－１、結果集計は資料１－２参照。)

研修年によってアンケート項目には若干の違いがある。それは、研修2008、および研修2009においては、前年に研修担当教員が必要だと感じた項目を加え、不必要だと感じた項目は削除してアンケートを作成したことによる。

(2) 研修生の教育活動状況

以下、コース前アンケートからわかった研修生の教育活動状況である。

1) 2007年の研修生 (研修生23名中21名回答)

①日本語教育歴は1年未満から最長18年まで非常にばらつきがあるが、「3～5年」が最も多く、平均すると6年程度である。

②担当している授業時間数は1週間に10時間未満 (2名) から21時間以上 (1名) までで、研修生の多くは10時間から20時間担当しており、16時間から20時間が10名と最も多い。

③担当経験のある学習者のレベルは初級が圧倒的に多く、内容は「文法」「会話」「読解」「聴解」「漢字」など多岐に渡っている。

④カリキュラムを作成することはあまりないが、教材作成やテスト作成、学習評価といった業務は多く行われている。

2) 2008年の研修生 (研修生20名中19名回答)

①日本語教育歴は1年未満 (1名) から20年以上 (2名) までと幅広いが、「5～9年」が研修生の約半数を占めている。

②担当している授業時間数は1週間に2時間 (1名) から19時間 (1名) までで、15時間担当している研修生が最も多い。また、担当授業時間を15時間から18時間に限定すると、この範囲に16名の研修生が入る。

③担当経験のある学習者のレベルは、2007年同様、初級が圧倒的に多く、内容も2007年同様「文法」「会話」「読解」「聴解」「漢字」など多岐に渡っている。

④カリキュラムを作成することはあまりないが、教材作成やテスト作成、学習評価といった業務は多く行われている。また、教科書選定に関わる研修生も13名いる。

3) 2009年の研修生 (研修生13名全員回答)

①日本語教育歴は１年未満（１名）から 20 年以上（２名）までと幅広いが、2008 年同様「５～９年」が研修生の約半数を占めている。

②担当している授業時間数は１週間に３時間（１名）から 18 時間（１名）までで、ばらつきがあり、平均すると 12 時間であるが、研修生の半数が 15 時間から 18 時間の範囲に入る。

③担当経験のある学習者のレベルは 2007 年、2008 年同様初級が圧倒的に多く、内容は「文法」「会話」「読解」「聴解」「漢字」など多岐に渡っているが、他の年に比べて「会話」の担当が少ない。

④カリキュラムを作成することはないが、教材作成やテスト作成、学習評価といった業務は多く行われている。また、教科書選定に関わっている研修生は５名いる。

上記項目から研修生に共通して述べられることは、以下の５点である。

・一つの研修グループの中に属する研修生の日本語教育歴は、教師になって１年経っていない研修生から、20 年以上の研修生もおり、非常に幅広く分布している。

・担当する授業時間数の分布も幅広いが、１週間に 15 ～ 20 時間担当している研修生が全体の 50％以上を占める。

・ほとんどの研修生が初級レベルの日本語を教えている、もしくは教えた経験がある。

・ほとんどの研修生が文法を教えていて、会話や読解を教えることも多い。聴解や作文の指導はあまり多くない。

・仕事内容としてはテスト作成、学習評価、教材作成が多いが、教科書選定も行う。カリキュラム作成はあまりしていない。

さらに、上記項目以外の過去３回の「コース前アンケート」の結果から、研修生の教育活動状況は以下のようにまとめられる。

・ほとんどの研修生が高等学校で教えている。

・中学校で教えている、もしくは教えた経験がある研修生も毎年若干含まれる。

・第二外国語科目としてドイツ語やフランス語を選択する学生の数が減少したことによって、教えていた科目がなくなり、一定の研修を受けて日本語を教えることに転向することとなった研修生が多く含まれる。

・日本語だけでなく漢文や情報処理などの授業を並行して受け持っている研修

生も少数ではあるが存在する。

・使用している教科書は、半数以上が『大韓教科書』(韓国文部省指定の教科書)である。

(3) 研修生の日本語能力

「コース前アンケート」の結果から、研修生の日本語能力には、かなりの差が存在することがわかった。

たとえば、日本語能力試験に限定して述べるならば、1級合格者も3級合格者も存在し、受験経験がない研修生もいる。(日本語能力試験の1級合格者は各年とも5名程度で、未受験者のほうが多い。)

また、研修生自身の自己評価においても、日本語能力試験1級レベルから初級レベルまでが存在する。(この問題に関しては3－1－5 (2) において述べる。)

次に、研修生の日本語学習歴であるが、これもさまざまで、日本語専攻で大学院まで進んだ研修生もいれば、(3－1－2 (2) で述べた)「日本語教師への転向」の際の研修で、2ヶ月習っただけであるという研修生もおり、学習目的や学習期間、その内容も多岐に渡っている。

大部分の研修生は短期間ではあるが (観光等で) 日本滞在の経験を持ち、日本での留学経験、研修経験のある研修生が各年とも1～2名存在する。

(4) 研修に対する希望

研修に対する希望について、各年の回答数の半数以上を占めたものをその数の多い順に提示すると以下の通りとなる。(詳細は資料1－2参照)

1) 2007 年の研修生

①日本文化体験

②他の教育機関の見学

③日本での日本語教育についての情報を得る

授業見学

授業技術の向上

2) 2008 年の研修生

①日本文化体験

②日本語力の向上

③授業見学
④授業技術の向上
⑤日本での日本語教育についての情報を得る
⑥教材作成能力の向上
日本人日本語教師との意見交換

3）2009 年の研修生
①授業に役立つ情報の収集
②日本語力の向上
③日本での日本語教育についての情報を得る
④授業技術の向上
日本文化体験

過去３回の結果を考察すると、日本語力に関しては、特に会話力の向上を望む研修生が多い。

教育能力については自分自身の授業が質的に向上することを望み、そのために、日本でしかできないこと、つまり日本文化や日本に触れたという経験を得、授業で使用できる生の情報をできるだけ収集しようと望んでいることがわかる。

（5）研修生が抱えている問題

研修生が直面している問題点については、「教師（研修生）自身の問題」と「現場の資料不足、教材不足」「教えている学習者及び教育環境の問題」の３項目に大別でき、「教師（研修生）自身の問題」は、さらに「教師（研修生）の日本語力」「教師（研修生）の教授力及び知識関連の問題」に分けられた。

まず、「教師（研修生）自身の問題」であるが、どの年も教師（研修生）自身の日本語力不足、特に会話力不足に問題を感じている研修生が多いことがわかる。また、同時に教授力が不足し、会話・発音・漢字の指導方法が充分とは言えないことや、日本や日本語、日本文化に対する自身の知識不足も感じているようだ。

さらに、授業時の資料や教材に不足を感じており、学習者の学習意欲の低さに悩み、特に後者については、学習者の学習意欲をいかに高めるか、日本語を難しいと思っている学習者にいかに興味を持たせるかということが大きな関心事項となっている研修生が多いということがわかった。

３－１－３．各年のカリキュラムの作成の経緯

以下、各年の研修は、「研修 2007」、「研修 2008」、「研修 2009」とする。

（1）研修 2007

2007 年の研修の際の主催者側の意向は、研修時間 90 コマ（1 コマ 50 分の授業）、うち 80 コマは教室内の授業とし、10 コマは日本文化体験などにあてるというものであった。

コースデザインを行うにあたっては、まず研修生のニーズを分析することが必要であるが、2007 年の研修以前には、本校において現職日本語教師を対象とした研修を行った実績はなく、韓国の日本語教育の現状に関する知識もあまり豊富ではなかったため、いろいろな方の御意見[注4]を参考にさせていただきながら方向性を模索した。

そして、御協力いただいた方々からの御意見を総合した結果、以下のようなことがわかった。

①「日本語能力のブラッシュアップ」「教授法・授業改善」「日本事情・日本文化」の三つの領域のニーズが高く、教授法と日本文化に関しては、最新の情報を得たいという希望が多い。

②日本文化については、伝統文化以外に、日本の若者（中学生や高校生）の流行や彼らが関心を持っていることについての情報を得るというニーズも高い。日本での研修であれば、研修生自身がいろいろな場所に出かけて情報収集したいという希望もあるのではないか。

③研修生の日本語力にはかなりレベル差があるため、なんらかの工夫が必要である。

④日本文化体験や見学、日本人との会話といった、日本でしかできない経験を重視すると研修生の満足度が上がりやすい。

これらの御意見と３－１－２で述べた「コース前アンケート」の結果を踏まえて、カリキュラムを作成した。

（2）研修 2008

2008 年の研修に際して主催者から提示された研修時間数は 82 コマ（1 コマ 50 分）[注5]であったが、研修生の来日日程に変更があったことにより、78 コマとなった。この年は、教室内授業と日本文化体験の割合に関して、特に指定される

ことはなかったが、実践的な教え方の授業をこれまで以上に強化してほしいという希望が出された。

研修2008のカリキュラムは、2007年の研修生に対して行った「コース評価」の結果と、今回の研修を行うにあたって実施した研修生への「コース前アンケート」の結果、上述の主催者からの希望と指導管理教員との話し合いの内容を踏まえて、研修2007の授業内容を見直し、研修生の希望にできるだけ沿うような形で、新たなカリキュラムを作成し、授業計画を立てた。(「コース評価」の詳細は資料3及び、後述の3－2参照)

また、できるだけ韓国の日本語教育に即した内容の研修にするために、指導管理教員に依頼して、研修生が使用している日本語の教科書を事前に取り寄せ、カリキュラム及び授業内容を決める上での参考にした。

(3) 研修2009

2009年の研修に際して主催者から提示された研修時間数は52コマ[注6]であった。この年も教室内授業と日本文化体験の割合に関して、特に指定されることはなかった。

カリキュラム作成手順は研修2008と基本的に同様である。

3－1－4. カリキュラムについて

研修2007から研修2009までの具体的な授業科目は「日本語教授法」、「日本語ブラッシュアップ」、「日本事情」の三つの領域に分けられる。(資料2参照)

この三つの領域は、研修2007においては授業科目に先行して存在したものではなく、具体的な授業科目を考えた結果生じたものであった。なぜなら、3－1－3 (1) において述べた通り、研修2007が、そのコースデザイン、カリキュラムデザイン自体が研修担当教員にとって初めての経験であり、模索する中で生まれた研修であったからである。

そして、研修2007終了後の「コース評価」及び、研修担当教員の反省、研修2008受け入れ決定後の「コース前アンケート」やカリキュラム検討の過程で、「この三つの領域は、研修生の研修目的やニーズにも合致しているため、今後も授業科目を考えていく上での大きな柱とし、それを基準にしてさまざまな授業科目を考えていくことがいいのではないか、また、もし研修生の中からこの三つの領域

に当てはまらないニーズが出てきた場合は、また新たな領域を設定し授業科目を考えていけばいいのではないか」という考えに至った。その結果、研修2008、研修2009も同一の三つの領域に分かれているのである。

実際の研修においては、この三つの領域に属する授業科目や校外研修を行い、そのほかに研修生の日本語力を調べるための「日本語チェック」と研修開始時のオリエンテーション、研修修了時の「コース評価」を行った。

（1）各領域の目的

先に述べた三つの領域については　それぞれ学習目的を設定しオリエンテーションの際に提示した。研修生に提示した各領域の目的は以下の通りである。

＜日本語教授法＞

帰国後すぐに実践できそうな授業改善のヒントを得る。

＜日本語ブラッシュアップ＞

研修生自身の日本語力向上を目指すとともに、使用する教材を通して現在本校で使用されている日本語教材のありかたを知る。

＜日本事情＞

日本の時事問題、日本文化への理解を深めるとともに、日本語教育に役立つ情報を入手する。[注7]

上記の目的は、３回の研修とも変更はない。

（2）各領域の授業科目

以下、各領域の授業科目を列挙する。(実施年については、資料２参照)

各授業科目は同じ名称であっても実施年により内容に若干の違いが存在する。それは、実施後、「コース評価」や授業担当者の手ごたえや、研修生の反応などをもとに授業内容に改訂を加え、次の年の授業で実施したからである。

また、同じ名称の授業科目であっても、実施年により実際の授業の担当者が異なる場合もある。ただし、授業内容に関しては、研修担当教員が詳細まで検討し決定した内容である。

授業科目のうち、複数の年で行われているものがあり、科目によっては実施した年によって属する領域が異なるものがある（詳細は後述）が、そのような科目については、その科目が最後に実施された時の分類に準じた。

1）日本語教授法

・初級の授業見学
・初級授業見学の前に
・初級授業見学の後で（意見交換会）
・選択式授業見学
・授業体験
・会話例文の作成
・文型の教え方
・会話の授業を考える
・読解の授業を考える
・聴解の授業を考える
・表記（漢字）の授業を考える
・作文の授業を考える
・日本語のゲーム
・シャドーイングについて
・本文の活用（発表活動あり）
・『楽しく話そう』模擬授業（発表活動あり）
・教材論『新文化初級日本語』について
・教材論『楽しく読もう』について
・教材論『楽しく話そう』について
・教材論『楽しく聞こう』について
・教材論『文化中級日本語Ⅰ』について
・教材論『文化中級日本語Ⅱ』について
・クラスマネージメントについて
・国際通訳・翻訳科授業体験
・国際通訳・翻訳科科目説明
・ＯＰＩについて

2）日本語ブラッシュアップ

・発音（発音改善の方法）
・発音Ａ（発音改善の方法）
・発音Ｂ（滑らかに話す訓練）

・読解会話（発表活動あり）
・上級会話　好印象を与える話し方
・上級会話　感情を込めて話す
・映画『ALWAYS　三丁目の夕日』
・ＶＴＲ『プロジェクトＸ』(NHK エンタープライズ)

３）日本事情

＜教室内授業＞

・日本の年末年始
・日本の政治とニュース
・鎌倉の歴史と観光
・伝統文化　歌舞伎
・日本の風景
・日本の芸能人
・人生の祝い事
・茶道について
・日本の歌を聞く

＜校外研修＞

・国会議事堂
・鎌倉
・凡人社
・江戸東京たてもの園
・茶道実習
・三鷹の森ジブリ美術館
・江戸東京博物館
・原宿、渋谷（若者の街調査＋発表活動あり）
・浅草　伝統菓子作り体験（雷おこし作り実習）
・サントリー武蔵野ビール工場

（３）実施授業科目についての内容及び、その変化と理由

授業科目を研修年別に見た場合、３年間続けて実施した科目と２年実施した科目、１年しか実施していない科目が存在する。また、その授業科目の内容の改訂

などにより、その科目の属する領域が変更になったものもある。

ここでは、研修2007については実施した授業の内容を記し、研修2008、2009については、前年に行った授業のうち該当年に行わなかった授業とその理由、継続して行った授業科目、領域を変更した授業とその変更内容、新しく行った授業科目の内容を記した。

3回の研修においてどのような科目を実施したかは、資料2にまとめた。

3－1－3で述べた通り、カリキュラム及び授業科目は「コース評価」の結果と、「コース前アンケート」の結果と、指導管理教員と研修担当教員の話し合いの内容を踏まえて決定しているが、授業科目の新設や変更、取りやめも同じ過程の中で行われている。

以下は科目の新設および実施取りやめの基本方針である。

まず、基本的に「コース評価」において研修生から良い評価が得られなかった科目のうち、改訂することで、適切な評価が得られ、研修生のニーズに合ったものになると考えたものに関しては、改訂を行い次年の実施候補に入れた。しかし、改訂によっても評価は変わらないと考えたものや存在自体が研修生のニーズに合っていなかったとわかったものについては、次年は実施しないこととする。

また、「コース前アンケート」やコース開始前の研修担当教員と指導管理教員の話し合いの過程では発見できず、研修中に研修担当教員が気付いた項目や研修後の「コース評価」、研修担当教員間での話し合いの中で必要であることが認められた項目に関しては、新しく授業科目を設定する。「コース評価」の詳細は資料3及び、後述の3－2参照)

さらに、授業を実施した結果、授業自体の存在価値はあるものの、授業目的を変更したほうが、より適切な内容になると考えられたものについては、属する領域を変更し適切な改訂を加える。

1）研修2007について

実施した授業科目は以下の通りである。

＜日本語教授法＞

a．会話例文の作成

初級の文法項目の分析と会話例文の作成および検討。

b．授業見学

本校日本語科の授業を見学する。

見学前に、見学する授業のポイントを解説する時間を、また、見学後には授業担当教員との質疑応答およびディスカッションの時間を設ける。

c．『楽しく話そう』模擬授業

既存の教材を工夫し、現場に合った形で有効に使う授業をグループで考え、代表者が発表する。

d．日本語のゲーム

日本語の授業で使えるゲームの紹介と体験。

e．本文の活用

教科書の本文の活用方法を考える。使用している教科書に関わらず応用できるような本文の活用の可能性を広げる。本文の日本語が自然かどうかを考え、不自然な部分の手直しをする。また、普段の授業で本文をどのように扱っているかを振り返り、学習者を楽しませながら効果的な学習を行うためのアイディアを紹介し、教科書を教えるのでなく教科書で教える方法を考える。

f．教材論

本校で出版している教材（『新文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』『文化中級日本語Ⅰ』『文化中級日本語Ⅱ』『楽しく読もう』『楽しく話そう』『楽しく聞こう』）の作成意図を講義し、内容を紹介する。

g．特別講義

①「クラスマネージメント」

コース前アンケートで「困難を感じている」という回答があった学習者の学習動機の高め方、人数の多いクラスの授業運営のためのアイディアを紹介する。

②「シャドーイングの紹介」

コース前アンケートで「自分自身の発音改善」「学習者の発音指導」のニーズが高かったため、教育活動の参考として、また研修生自身の日本語ブラッシュアップの方法の一つとしてシャドーイングの教材を紹介する。

③「ＯＰＩの紹介」

研修生が会話の授業を担当していること、また学習者の評価という業

務を行っていることから、学習者の会話レベルの判定方法の一つとして紹介する。

④本校「国際通訳・翻訳科日韓コース」の科目説明と授業体験

通訳、翻訳の専門科目の授業を日本語学習者が最終目標に至る前の段階の一つの選択肢であると考え、その授業を知らせる。

＜日本語ブラッシュアップ＞

a．発音

韓国人学習者によく見られる発音上の問題点とその指導方法を紹介する。また、ＬＬ教室を利用して研修生自身の発音の癖や弱点を認識させ、発音改善につなげる。

b．読解会話

『Ｒ 25』（リクルート）を利用し、最近の流行や日本がわかるような短い記事を読んで短く適切にまとめて発表し、意見交換をする。

c．映画『ALWAYS　三丁目の夕日』

映画の鑑賞と鑑賞のための教材を体験する。

d．日本の歌を聞く

若者に人気のある歌の紹介と内容理解。

e．手紙を書く

茶道の先生へのお礼状を書く（書き方を知らせ、希望者が書く）。

＜日本事情＞

a．歌舞伎について

歴史や特徴、見所などについての講義とビデオ鑑賞。

b．日本の年末年始

日本の年末年始の行事・風俗を紹介する。また、お正月の遊びを体験し、授業のヒントとする。

c．日本の風景

日本各地の地理的特徴、観光地などについて知る。また、都内にあるアンテナショップを紹介し、日本各地の情報が収集できるようにする。

d．人生の祝い事

七五三や成人式など日本人が人生の節目として祝う行事について知る。

e．仮名を美しく書く
筆ペンを使ってかな文字や漢字の書き方を実習する。

f．日本の芸能人
若者に人気のある芸能人について知る。紅白歌合戦の紹介もする。

g．日本の政治とニュース
前年(2006年)のニュースを中心に、最近の日本での出来事を紹介し日本の政界の知識を伝える。

h．校外研修　茶道教室

i．校外研修　浅草　伝統菓子作り体験（雷おこし）

j．校外研修　三鷹の森ジブリ美術館
韓国の若者に人気のあるアニメに関する情報を得る。

k．校外研修　原宿、渋谷の街で見つけたもの
若者の集まる街に出かけて行き、興味を引かれたものを写真に撮り発表する。

2）研修2008について

研修2008は主催者側からの提示により、授業時間数が前年より12コマ減少した。

また、３－１－３(2)で述べた、カリキュラム作成過程の中で、研修2008の学内の授業については①「会話の授業、」②「授業技術の向上を目的とした授業」、③「日本事情の授業」注8、④「研修生の日本語力を高める授業」の４種類の授業を新設することとし、研修2007のコース評価の際に出てきた問題点の一つである「日本の体験」の少なさを補うために、校外研修を増やすこととした。

なお、①④は「日本語ブラッシュアップ」の領域に、②は「日本語教授法」の領域に、③は「日本事情」の領域に属するものとした。

さらに、研修2007の「コース評価」結果において、研修生から希望が多く、なおかつ研修2008の「コース前のアンケート」でも希望の多かった「日本の学校の授業見学」に関しては、外部機関との交渉など研修担当教員だけでは実現が難しい点が多かったため、研修2008の研修窓口である文化学園国際交流センターに依頼し、実現に向けての作業を進めた。注9

以下、研修2008で行わなかった授業とその主な理由である。

＜日本語教授法＞

c．『楽しく話そう』模擬授業

理由：内容を大幅に変えて新しい授業科目（「会話の授業を考える」）に統合したため。

f．教材論

理由：研修2007の「コース評価」において研修生からの評価が低く、本校出版物の宣伝といった印象を与えてしまったため。また、重要要素を新しい授業科目（「～の授業を考える」）に統合したため。

g．特別講義

①「クラスマネージメント」

②「シャドーイングの紹介」

③「ＯＰＩの紹介」

④本校「国際通訳・翻訳科日韓コース」の科目説明と授業体験

理由：研修2007の「コース評価」において、研修生からの評価が低く、研修期間中に知り得た研修生の教育活動状況を考えても必要性が低かったため。また、①②③のような理論的な授業は敬遠されがちであり、実際の授業ですぐに役立つものでないと高い評価は得られないことがわかった。④は本校の教育活動の宣伝という印象を与えてしまったため。

＜日本語ブラッシュアップ＞

d．日本の歌を聞く

理由：研修2007のコース評価において、研修生からの評価は高かったが、研修担当教員がカリキュラムを考える上で、他の科目に比べ、日本語力向上の効果が低いと判断したため。

e．手紙を書く

理由：研修2007においても授業内で書く時間がなく、希望者のみが行う宿題となったため。また、茶道実習形態が変更になったため。また実施してみて、(研修生の日本語力の差を考えると)適切な活動とは言い難かったため。

＜日本事情＞

d．人生の祝い事

f．日本の芸能人

理由：d、fはともに研修2007の「コース評価」において、研修生からの評価は高かったが、研修担当教員がカリキュラムを考える上で、他の科目に比べ情報としての必要性が低いと考えたため。（ただし、芸能人に関しては、名前の読み方という視点で、後述のjに取り入れた。）

i．校外研修　浅草　伝統菓子作り体験（雷おこし）

理由：よく似た菓子が韓国にもあるため、日本文化の体験としては物足りなさを感じた研修生が多く、研修2007の「コース評価」において、研修生からの評価が低かったため。

k．校外研修　原宿、渋谷の街で見つけたもの

理由：研修2007の「コース評価」において、研修生からの評価は低くはなかったものの、研修担当教員がカリキュラムを考える上で、研修生の授業時間外の負担が大きいと判断したため。

以下、研修2007から継続して行った授業科目である。

＜日本語教授法＞

a．会話例文の作成

b．授業見学

d．日本語のゲーム

e．本文の活用

＜日本語ブラッシュアップ＞

a．発音

b．読解会話

c．映画『ALWAYS　三丁目の夕日』

＜日本事情＞

a．歌舞伎について

b．日本の年末年始

c．日本の風景

g．日本の政治とニュース

h．校外研修　茶道実習（ただし、実習場所が江戸東京たてもの園に変更）

j．校外研修　三鷹の森ジブリ美術館

以下、領域を変更し実施した授業科目と変更内容である。

e．仮名を美しく書く

変更内容：「日本事情」から「日本語ブラッシュアップ」へ変更し、仮名を美しく書くコツを伝え、練習を行う。

以下、新しく行った授業科目とその内容である。

＜日本語教授法＞

h．選択式授業見学

初級の授業をもっと見たい、初級以外の授業も見学したいという研修生の希望をかなえるために、ある一定の時間を設定して、希望の授業を見学し、その後感想などを授業担当教員に提出し、紙面上の意見交換を行う。

i．文型の教え方

直接法で教える方法を紹介し、本校の日本語教師養成科の学生が行った教育実習のVTRを視聴し、日本語でのやり取りをできるだけ取り入れた基本的な文型の授業を紹介。

j．表記（漢字）の授業を考える

現在本校で行われている初級の非漢字圏日本語学習者に対する漢字の授業と教材を紹介するとともに、授業を通していかに楽しく合理的に漢字を学ぶかを考える。

k．会話の授業を考える

l．読解の授業を考える

m．聴解の授業を考える

n．作文の授業を考える

k～nは、段階を踏んで目標に到達するということを、本校の教材を体験しながら知ると同時に、各技能を伸ばす授業の内容や教材のあり方（目標とそれに至る方法）を考える。

＜日本語ブラッシュアップ＞

f．上級会話　好印象を与える話し方

文法や使用語彙が正しくても日本人のコミュニケーションの特徴を知

らないために相手に与える印象が悪くなることがあるということを知り、どのように話したら好印象を与えられるのか、音声面の練習も含めて学ぶ。

g．上級会話　感情をこめて話す

どのように話すとどのような感情が伝えられるのかを知り、自分の意図した感情を誤解なく伝えられるように練習する。

＜日本事情＞

l．鎌倉の歴史と観光

m．校外研修　鎌倉

lとmは武士が活躍し始めた鎌倉時代の舞台であり、東京から気軽に行ける観光地鎌倉へ行くことで、日本文化への知識を深める。校外研修に先立って、鎌倉時代と鎌倉の予備知識を内容とした講義を行う。

n．校外研修　国会議事堂

ニュース番組によく映し出される日本の政治の舞台を実際に見ると同時に、一般の日本人（国会議事堂の職員）による解説を聞く。

o．校外研修　凡人社

日本語教材や日本語、日本語教育に関する情報を収集する。

p．校外研修　江戸東京博物館

日本に対する知識を深めると同時に、日本に関する情報を収集する。

3）研修2009について

研修2009は過去の2回と比較すると、研修期間が約1週間短かったため、授業時間数が少なくなり、研修2008の「コース評価」において好評だった授業を研修2008と同様の形で実施することは困難となった。そのため、授業科目の配分や授業内容、時間割について再検討が必要となった。

再検討にあたっては、研修2008の研修項目を単純に減少させるということではなく、既存の授業の改訂と新規の授業の設置により、よりよいカリキュラムを作成することを目指した。

まず改訂であるが、研修2008において実施していた授業については、研修2008の「コース評価」の中で研修生から出された希望を取り込みながら、研修成果を落とさない、むしろ改訂により効果を上げることを目標に、授業運営

や課題実践時間のとり方、教材の内容を見直した。また、授業時間に設けていた研修生同士の学習情報共有のための話し合いの時間は、話し合いの必要性を説明し、放課後の研修時間に個別に持つよう指示することとした。

新しい研修項目は、研修2008までの「コース評価」で、研修生から取り入れたほうがいいという意見が多かった項目で、今回の「コース前アンケート」の結果においてもニーズが高いと判断されたものである。新しい研修項目については、研修生の日本語レベルに応じた形で新しく教材を作成し、適切な時期に授業を行うこととした。

また、研修期間の短さを補うために、「短期間の研修において研修生がその成果を実感できるのではないか」と研修担当教員が考えた内容の授業も、新たに加えることにした。

さらに、今回は、今まで以上に個々の研修生の研修成果を上げるために、受け入れ後明確になる研修生の日本語力の差およびその編成人数に合わせて、研修開始後も授業の内容的な変更を行うことを前提として、カリキュラム及び授業内容を決定した。

そして、研修2008以上に研修生のおかれた日本語教育の環境に合った研修を行うために、研修生が韓国で日々使用している教科書をできるだけ使用する(参考として提示する場合も含む）形での授業を計画した。

その結果、研修2009は、研修2008、2007よりも「日本事情」の授業が大幅に減少し、「日本語教授法」、「日本語ブラッシュアップ」の授業が中心となった。

まず、学内の授業に関しては、「日本語教授法」の領域と「日本語ブラッシュアップ」の領域を大きな二つの柱とした。そして、「日本事情」の授業の減少を補うために、研修生に必要な日本事情や日本文化の情報は、「日本語教授法」と「日本語ブラッシュアップ」の授業に、たとえば話題として提示するといった形で、取り込んでいくこととし、オリエンテーション時に、「日本語教授法」や「日本語ブラッシュアップ」の授業の中には「日本人のコミュニケーションや日本、日本語、日本社会についての知識」など日本事情もたくさん出てくることを伝え、この点も意識しつつ授業を受けてほしいということを説明した。

日本理解と情報収集を目的とした「日本事情」については、基本的に校外研修を中心とし、学内での授業は1時間のみ行った。また、校外研修の行き先については、研修生が個人的に行ったのではできない経験ができるところを選び、

回数は少なくても、研修後に役立つ意味のあるものにするため、研修2008と同様の場所に行くのであっても、得られる情報量を増やす内容とした。また、校外研修後、自主的に見聞を広げられるように、目的地からさらに行動範囲を広げられるような情報を事前に提供した。

なお、研修2007及び2008で行った校外研修先のうち、今回行かなくなったところに関しては、研修生に配布した「研修ノート」[注10]の冒頭に紹介のページを作って提示し、自主研修時間の充実を図った。

以下、研修2009で行わなかった授業である。行わなかった理由は前述の通りである。

＜日本語教授法＞

h．選択式授業見学

＜日本事情＞

a．歌舞伎について

b．日本の年末年始

c．日本の風景

g．日本の政治とニュース

j．校外研修　三鷹の森ジブリ美術館

l．鎌倉の歴史と観光

m．校外研修　鎌倉

n．校外研修　国会議事堂

o．校外研修　凡人社

以下、研修2008から継続して行った授業科目である。

＜日本語教授法＞

a．会話例文の作成

b．授業見学

d．日本語のゲーム

e．本文の活用

i．文型の教え方

j．表記（漢字）の授業を考える

k．会話の授業を考える

l．読解の授業を考える

m．聴解の授業を考える

n．作文の授業を考える

＜日本語ブラッシュアップ＞

a．発音

ただし、発音の学習は新たな内容を新設したため、研修2009から「発音A」という名称に変更した。

b．読解会話

c．映画『ALWAYS　三丁目の夕日』

e．仮名を美しく書く

f．上級会話　好印象を与える話し方

g．上級会話　感情をこめて話す

＜日本事情＞

h．校外研修　茶道実習（江戸東京たてもの園）

茶道体験をより充実した内容のものとするために、校外研修に出る前に1時間「茶道について」の授業を設定した。

p．校外研修　江戸東京博物館

江戸東京博物館では韓国語がわかるガイドを伴った見学を行った。

研修2008から2009において領域を変更し実施した授業科目はない。

以下、新しく行った授業科目とその内容である。

＜日本語教授法＞

o．授業体験

研修生の使用している教科書を基にした授業を研修担当教員が行い、研修生自身がその授業を体験する「授業体験」。「日本語教授法」で学んだ知識をベースにして組み立てられた初級の授業を実際に体験する。

＜日本語ブラッシュアップ＞

h．『プロジェクトX』

日本のテレビ番組を見て内容を理解する（と同時に、日本に関する知識を増やす）。

i．発音B

「シャドーイング」と「文型練習」（初級文型項目のLL教材）を取り

入れた滑らかに話す訓練。

＜日本事情＞

q．校外研修　サントリー武蔵野ビール工場

案内係の明瞭な発音で話される日本語を耳にして理解すると同時に、日本の一端を知る。

r．茶道について

茶道実習に先立ち、日本の茶道をテーマにしたテレビ番組を見て、基礎知識を得る。

３－１－５．研修生の抱える諸問題への対応

（1）研修生の年齢、教育歴に関すること

研修生の年齢は20代後半から50代後半に分布し、平均すると40代後半であり、研修担当教員よりも年齢が上である研修生が多く、また教師歴も長い研修生がかなり存在した。この事実が研修2007の「コース前アンケート」により判明した時点から、研修担当教員は研修生にどのように接していくべきなのか検討することになった。

まず、研修生同士の問題であるが、周知のごとく、韓国人の場合その集団構成員に年齢差が存在すると、発言権や獲得できる機会に不平等が生じる場合[注11]がある。そして、その不平等な環境は、年上年下の両者の発展の足かせになり、学習活動において良い影響を与えない場合がある。そのため、集団構成員に年齢差の存在する本校教師養成科においては、年齢差による待遇の違いは認めず、学生は平等に意見を出し合い、年上年下という問題で何らかのデメリットを抱えないよう、年度初頭から継続的に指導している。

しかし、①このことを理解し、その環境にある程度抵抗を感じなくなるには時間がかかるが、研修生の滞日期間が短期であること、②研修生の大部分が教師養成科の学生よりはるかに年齢が高いこと、③研修生は習慣や価値観の異なる異文化の中での生活経験が少なく、日々異文化と接している状況におかれていないこと、④日本での言動が、元の環境に戻った時の人間関係に影響を及ぼすことは避けるべきであると研修担当教員が考えたこと、以上四つの理由により、研修生の年齢差に起因する言動が、研修効果にマイナスの影響を与えるとしても、その言動に関して干渉することは避けることにした。

ただし、遠慮なく意見を述べることは、研修生自身の発展や向上につながる大切な活動であり、研修効果を上げるためには必要不可欠であると考え、研修開始時のオリエンテーションにおいて推奨する形で伝えた。

また、研修担当教員より年上である研修生の存在を考え、研修開始時のオリエンテーションにおいて研修担当教員とはいえ、研修生から学ぶことがたくさんあることを伝え、同じ日本語教師の立場であり、お互いの違いから学び合いたいということ、特に教師歴の長い研修生からは教えてもらうことが多いということを伝えた。

さらに、研修生に対しては授業中の説明や指示であっても、敬語を使用し[注12]、研修担当教員が研修生を呼ぶ際は（通常は「さん」をつけて呼ぶが、）「先生」をつけることにした。[注13]

そして、研修生にとっては未知であると考えられる項目に関しても、全く知らないという前提で話すことは避けた。（「御存じないことかもしれませんが」という言い方は使用せず、「これは御存じのことと思いますが」という前置きをしてから話すなどの配慮をした。）

（2）日本語のレベル差に関すること

３－１－２（2）および３－１－２（3）で述べた通り、研修生の教師歴はその年齢に比例するものの、日本語教師歴は他の科目からの転向の問題もあり、年齢に比例しているとは言えない。

また、研修開始時に行う日本語力チェック（本校作成）の結果からも、研修生の日本語力は、初級中期から上級までの広範囲に広がっていた。この日本語力に関しても、年齢や教師歴、日本語教授歴との相関関係はなく、純粋に研修生の日本語学習歴に起因していた。

研修生の日本語学習歴はさまざまで、大学において日本語が主専攻で大学院まで進んだという研修生もいれば、短期の研修で２ヶ月習っただけの研修生もいて、学習期間も多岐に渡っていた。特に、もともとは日本語以外の科目を教えていて、そこから日本語教師に転向するために一定期間の研修を受けて日本語教師になった研修生（教授科目転向者）と、日本語主専攻だった研修生との間には、日本語力に大きな開きがあった。[注14] そして、年齢の低い研修生ほど日本語力が高いという傾向が存在した。このことにより、研修運営はさらに工夫が必要となった。

研修をスムーズに進め、その効果を上げていくためには、研修生の精神的な安定が不可欠である。そこで、「コース前アンケート」の「日本語教師歴」「他の科目の教師歴」「日本語能力」「年齢」などの情報を研修担当教員が共有し、授業中の研修生の発言の取り扱いをはじめ、課題を行うグループ構成など、細かい点にも配慮して授業を進めることにした。

また、研修生同士がプライドをもって研修を進められることを常に念頭において、カリキュラム及び授業内容を設定し、授業を運営することとし、授業中に行われる研修生同士の話し合いなどで韓国語が使用されることに関しても、何の問題もない行為、むしろ時間を節約する行為であると考えているという姿勢で、対応することとした。[注15] 配布教材に関しても、授業中読む可能性のある部分は、全ての漢字にルビを振り、漢字力の差が学習効果に影響を与えないようにした。

まず、「日本語ブラッシュアップ」の授業は、全ての研修生の日本語力が何らかの形で向上させられる内容にした。たとえば、日本語の上級会話の中で指導するコミュニケーションのスキルを学ぶ項目では、実際に研修生が発話する日本語を「初級レベル～中級レベルに相当するもの」にし、全ての研修生がそれぞれの日本語レベルで対応できる項目、研修生同士が補い合って対応できる内容の項目を取り扱った。また、授業中も個々の日本語能力の差に対応すべく、授業担当教員は、たとえば、練習中の机間巡視の際、レベルに応じた練習をさせる、達成すべき目標を個人ごとに変えるなど、研修生に合わせた個別の対応を行うよう心がけた。また、オリエンテーションでこの科目に関して説明する際は、日本語運用能力が中上級レベルの研修生（以下「中上級レベルの研修生」とする）を意識して、この科目の目的は日本語力向上であるが、授業で使用する教材は「日本語の教材」として、授業担当教員の授業運営は「教え方の例」として、教師の目線で見てほしいということを説明した。

「日本語教授法」の授業は、中上級レベルの研修生にとっては、教材理解、授業理解といった本来の目的で授業が行えるが、初級（中期～後期）レベルの日本語運用能力の研修生（以下「初級レベルの研修生」とする）にとっては、講義を聞いて理解すること自体が難しい。そこで、初級レベルの研修生のために「日本語教授法」の授業においては、授業で扱う例としての日本語教材を初級レベルの研修生の日本語力でも対応できるもの（たとえば、「～を考える」と名づけた授業の中で取り扱う教材を初級後期レベルの教材）にし、その教材を体験すること

で、日本語の能力を伸ばしてもらうことにした。

「会話例文の作成」の授業は、取り扱う文型に関する講義を行い、その後グループで話し合いながら会話例文を作成し、発表するという流れで行う。この講義の部分は、日本語運用能力上級レベルの研修生（以下「上級レベルの研修生」とする）にとっても手ごたえのある内容のもので、話すスピードも日本人に対するものと同じである。ゆえに、初級レベルの研修生のことを考慮し、取り扱う項目を初級文型とした。また、例文作成段階での韓国語による話し合いにおいて、講義の内容が、上級レベルの研修生から初級レベルの研修生に十分に伝わるように必ず一人は上級レベルの研修生を入れてグループを作った。そして、その後、発表するという活動を行うことで、初級レベル研修生が違和感なく日本語力の向上を図れるようにした。

そして、オリエンテーションでこの科目に関して説明する際は、初級レベルの研修生を意識して、教材体験部分が日本語のブラッシュアップも兼ねていること、その部分では学習者になりきって練習してほしいこと（この体験も教師の勉強の一つとして重要であること）を伝えた。

「日本事情」教材に関しては、特にレベル差に配慮せず、中級レベルの設定で作成した。

中上級レベルの研修生に対しては、全ての授業をノーマルスピードの日本語で行うことで、聴解力の訓練を行い、さまざまな授業で、より日本語らしい発音を意識させること、発表などで中心的な役割を担ってもらうことなどによって、対応しようと考えた。そのため、研修の授業において授業担当教員が初級レベルの研修生に合わせて、話すスピードを落としたり、必要以上に要点を繰り返して述べるたりすることはしなかった。[注16]

（3）その他

「コース前アンケート」の結果、多くの研修生が、学習者の日本語に対する関心の低さを改善するために、「学習者の興味を引く授業がしたい」「楽しい授業をしたい」と希望していること、または、そのような授業ができないことに悩んでいることが、判明した。

この問題を解決するために、研修2007においては、「日本語教授法」の特別講義に「クラスマネージメント」を取り入れた。しかし、先に述べた通り、コース

評価では研修生の支持を得られなかった。

そこで、もっと具体的に示すことによって満足度ガ高められるのではないかと考え、研修2008からは、「日本語教授法」の授業で、授業担当者が意識的に以下の3項目を取り入れて授業を行うことにした。

①年若い学習者が日本語の勉強を積極的にしたくなるような教材の工夫や、練習の方法などを伝える。

②若い韓国人の間で人気のある日本の芸能人やドラマ、話題などを取り上げるようにする。

③「語学学習における楽しさとは何か」を考える機会を持つ。「楽しく授業をするためには、学習者に関心を持たせるためには、どのようにしたらよいか」と言う切り口で話す。

そして、研修2009においては、①～③を全ての領域の授業に適用することとし、より具体的な例を見せたり、授業に研修生自身に楽しさを体験させる要素を取り込んだりした。そして研修生には、楽しくなる方法を常に意識しながら研修の授業を受けるよう、オリエンテーションの際に意識付けを行った。

3－2．コース評価

3－2－1．目的

「コース評価」は研修担当教員にとっては、運営したコースに対する研修生の評価を知り、それを次の研修に生かすと同時に、日本語教師養成教育や研修の内容を向上させるなど、自身の教育活動の向上を目的とした存在である。同時に、研修生にとっては「コース評価」記入の際に、研修で行われた全ての科目の一覧を目にすることになり、自分の受けた研修の振り返りの機会となる。

研修最終日に「コース評価」を行うことで、（上記二つの目的に加え、）「コース前アンケート」から始まって、終了時の「コース評価」までの一連の流れを示すことで、研修生（日本語教育でいえば学習者）のニーズを反映させたカリキュラム作成し、コース終了後もさらに改善を目指すというコースデザインの在り方を研修生に伝えられたらと考えた。

３－２－２．内容

「コース評価」において質問した内容は以下の通りである。(資料３－１に2009 年実施のコース評価シートを掲載した)

以下＜　　＞内の数字は、実施年である。

A．授業科目に関する質問

①全ての授業科目に関して点数評価とコメント記入

＜2007＞

「よかった・まあまあ・よくなかった」で３段階評価

＜2008・2009＞

「授業内容」、「役に立つか」の２項目に対して、それぞれ「とてもよかった・よかった・まあまあ・あまりよくなかった・ぜんぜんよくなかった」で５段階評価

②授業見学に関するもの

＜2007＞

「よかった・まあまあ・よくなかった」で３段階評価

＜2008・2009＞

回数が十分か 「ちょうどいい・多い・少ない」で評価し、意見を記入

③あったらよかった授業のアイディアを書く＜2007・2008・2009＞

B．授業関連事項に関するもの

①「研修ノート」について＜2008・2009＞

・使ったか 「はい・まあまあ・いいえ」で評価

・あったほうがいいか 「はい・どちらでもいい・いいえ」で評価

②紹介した「東京近郊の観光地」や「イベント情報」について

＜2008・2009＞

役に立ったか「はい・まあまあ・いいえ」で評価

C．研修における「日本語教授法」「日本語のブラッシュアップ」「日本事情」の望ましいバランスについて、全体が100％になるように答える

＜2007・2008・2009＞

D．一日の授業時間数に関して＜2007＞

「よかった・よくなかった」で評価

よくなかった場合は適切な時間数を記入

E．授業担当教員に関するもの

①話すスピードについて「速すぎる・ちょうどいい・遅すぎる」の３段階で評価＜2008・2009＞

②説明の分かりやすさについて「わかりやすい・まあまあわかる・わかりにくい」の３段階で評価＜2008・2009＞

②授業担当教員に対するアドバイス、苦情、一言を自由に書く

＜2008・2009＞

④今回担当した教師について＜2007＞

「よかった・まあまあ・よくなかった」で評価し、意見を記入

F．研修成果に関するもの

①情報収集ができたか＜2008・2009＞

②文化体験ができたか＜2008・2009＞

③授業技術が向上したか＜2008・2009＞

④教材作成能力が向上したか＜2008・2009＞

⑤日本語力が向上したか＜2008・2009＞

⑥教師間の意見交換ができたか（「他の研修生と」「研修担当教員と」に分けて質問）＜2008・2009＞

以上①～⑥は４段階評価し、不十分な点を記入

⑦楽しく教えられるヒントが得られたか＜2009＞

「はい・まあまあ・いいえ」の３段階で評価し、意見を記入

⑧最初のアンケートで記入した目標（「どんな変化をして帰国したいか」、「何を得て帰国したいか」）を達成できそうか＜2009＞

「十分できると思う・まあまあ達成できる・あまり達成できないと思う」の３段階で評価

G．来日前に知っていればもっと良かったという情報があったら記入

＜2008・2009＞

H．研修時間以外の時間の使い方に関する質問＜2007＞

意見記入

I．研修の形態に関して（クラスとレベル分け）＜2007＞

よいと思う形態を選択し意見記入（以下選択肢）

・特別にクラスを設置して行う

・特別にクラスを設置するが、レベルによって分ける
・何人かのグループになって日本語科のクラスに分散し、じっくり観察する
・何人かのグループになって日本語科の教師がそのグループを担当し指導する
・その他

J．教務スタッフについて＜2007＞
「よかった・まあまあ・よくなかった」の3段階で評価し、意見を記入

K．宿舎の設備やスタッフについて＜2007＞
「よかった・まあまあ・よくなかった」の3段階で評価し、意見を記入

L．研修全体に対する意見を記入＜2008・2009＞

3－2－3．結果考察

以下、2007年、2008年、2009年の結果に関して、質問の種類別に考察する。なお、「コース評価」の結果（回答）はその一部を資料3－2、3－3にまとめた。

A．授業科目に関する質問

・現場ですぐに応用できる方法を取り上げた授業、研修生が帰国後すぐに自分自身の授業に使用できる内容の授業に対する評価が高かった。逆に授業目的を把握しにくいものや、授業後その効果をすぐに感じることができないものに対する評価は低かった。これは、本校の授業と研修生の行っている授業の物理的な差（1クラスの学生数や設備）やカリキュラムの差から生じる問題であると考えられる。短期間の研修であることを考えると、研修直後の満足度を上げるためには、授業中もしくは授業後すぐに効果が感じられる項目を授業に取り入れたほうがいい。

・日本語のブラッシュアップを目的とした授業に対する評価が高かった。
1ヶ月以下の短い研修であっても、自身の日本語力の向上を期待する研修生が、年齢や教授経験、日本語のレベルを問わず多いということが「コース前アンケート」の結果やこの後に述べる項目Cからも伺える。

・どの研修においても、会話の授業や発音の授業を増やしてほしいという意見が出ている。実際には研修2007のコース評価の結果から、その後の研修において、会話や発音の授業を増加させているものの、常に同じ意見が

出されるということは、日本での研修に四技能の中でも特に会話力の向上を期待する研修生が多いと言えるだろう。

B．授業関連事項に関するもの

・「研修ノート」に対する評価は高かった。研修の記録という意味でも、研修項目を振り返る意味でも有益なようだ。

・東京近郊の観光地やイベントに関しての情報は、時期に合ったものを研修生自身が来日後すぐに得ることは難しいので、こちらから提供したものは役に立ったようだ。

C．研修における「日本語教授法」「日本語のブラッシュアップ」「日本事情」の望ましいバランスについて

実施したもののバランスと研修生の回答結果を比較すると、全ての研修において「日本語ブラッシュアップ」の授業数の増加を望む声が高い。（３－１－５（２）で述べた通り、「日本語教授法」の領域の授業であっても日本語のブラッシュアップも兼ねているものがあったが、その部分も含めた上で、さらにブラッシュアップの時間が必要だと研修生が考えているのか、またそもそもブラッシュアップも兼ねている授業において、研修生がそれを意識していたかどうかは確認していない。）

一方、３－１－３（２）で述べた通り、主催者側は教授法の強化を望んでいる。今後は、主催者側と研修生の希望を満たすカリキュラムを模索する必要がある。

D．一日の授業時間数に関して

研修 2007 においては１日５時間であったが、これに対して多くの研修生が情報収集のための時間として午後を有効に使いたいと希望した。この点については、主催者側が研修生の意見を取り入れ、研修 2008 以降は 13：00 までの４時間ということになった。

この結果は資料３に掲載しない。（研修時間数は主催者側が決定し、変更はなく、研修 2008 以降、この点について調査していないため。）

E．授業担当教員に関するもの

研修生自身が教員であるため、授業の準備の状況や、授業に対する姿勢などにも目を向け公正な評価をしていたと言える。

この結果は今後の参考のため授業を担当した教員に知らせた。この結果

は資料３に掲載しない。(結果の公表に関して全ての授業担当教員の承諾を得ていないため。)

F．研修成果に関するもの

どの項目に関しても、一定以上の成果を感じていたようだが、研修2009の重要項目であった「楽しく授業ができるヒントが得られたか」に関しては、ほぼ全員が成果を認めていた。授業担当者が常に意識し、さまざまな授業の中で「楽しくなるヒント」を紹介したための結果であろう。

G．来日前に知っていればもっと良かったという情報があったら記入

授業に関する問題についての記載はなく、日本での生活をより便利にするための情報（地下鉄や寮の設備）についての記載があっただけである。よって、この結果は資料３に掲載しない。

H．研修時間以外の時間の使い方に関する質問

研修2007において質問した項目であるが、多くの研修生から以下の２点が挙げられていた。

①自分が必要な情報を得る、自分が行きたいと思っているところに行くための時間

②日本文化の体験

結果から研修生一人ひとりが、日本で行いたいことをしっかり意識して来日し研修を受けていることがわかった。

この結果は、資料３に掲載しない。(研修2008以降、この点について調査していないため。)

I．研修の形態に関して（クラスとレベル分け）

１クラスで授業を行っている現在の形態に関して、肯定的な意見と日本語のレベルによってクラス分けを望む意見があった。しかし、本校の運営上の問題からクラス分けをして対応することは困難である。また、日本語のレベル差を可視化させることは、新たな問題が生じる（３－３－３で後述）ので、今後も１クラスでの運営となる。

１クラスの中で日本語のレベル差の存在している状況で、教材や授業運営など、研修担当教員がどのように対処しているかを研修生が意識し、研修後自身の教授活動において役立ててほしい。

この結果は、資料３に掲載しない。(研修2008以降、この点について

調査していないため。)

J．教務スタッフについて

カリキュラムに全く関係のない回答であったため、考察も省略し、結果も掲載しない。

K．宿舎の設備やスタッフについて

授業やカリキュラムなどに関わる意見としては、宿舎の設備については、情報収集や日本語学習に必要なテレビ、録画装置を求める回答があった。

この結果は、資料３に掲載しない。(研修 2008 以降、この点について調査していないため。)

L．研修全体に対する意見記入

さまざまな意見が出されていたが、研修生の意見は以下の４項目にまとめられる。

①放課後の時間について

具体的回答

・授業時間に関して、１コマ 50 分ではなく、100 分にして休憩時間を長くしてほしい。

・発表などのための準備時間を研修の授業時間内に入れてほしい。

この意見は、上述のＤやＨ①とも関わるが、学校に拘束される時間や学校のカリキュラムによって使用する時間を、実質の授業時間を減少させずに短くしたいという研修生の気持ちを表したものと言えよう。研修生は、短い日本滞在時間を有効に活用したいと考え、放課後の時間についても重要視し、具体的な計画を持って来日する。その時間を確保するために、上記のような意見が出されたものと推察できる。

②研修期間について

具体的回答

・研修期間を長くし、時間的余裕をもって研修を受けたい。

３－３－４でも述べるが、非常に学習量の多い研修を行っていることは、研修担当教員も自覚している。研修の期間は主催者により決められているため、長期化は難しいが、今後、現地の情報をもっと得る努力を行い、研修生に真に必要なものは何かを知り、より適切な学習量にするために内容の取捨選択を行う必要があろう。

③教材について

具体的回答

・プリントを配布するのではなく、１冊の本にしてほしい。

発音の科目や、何コマも続く授業に関しては冊子化して渡しているものの、多くの教材がプリントの形で配布されている。１冊になっているほうが、研修後効率よく振り返ることができると思われる。ただ、研修に使用する教材は、研修ごとに若干の改訂を加えたり、新しく作成したりしている。また、研修生が来日してから若干の改訂を加える場合もあるため、開始時にまとめて渡すのは難しい。

④日本の礼儀、マナーについて

具体的回答

・日本の礼儀についてもう少し教えてほしい。

この意見は、研修 2009 において初めて出された回答である。研修中滞在する寮において、日常生活を送る中で日本人と接触する場面があり、その際、日本式のマナーを知らないために、不都合が生じたとのことであった。今後の研修では、研修初期にこの種の情報を提供する必要があろう。

研修生から出た意見は個人的な内容も含まれるため、この結果は、資料３に掲載しない。

３－３．研修担当教員の所感

３－３－１．研修生の研修姿勢に関して

2007 年からの３回の研修において、研修生は、その年齢や経歴を問わず、常に授業中に提供される情報をはじめとする新しい知識を獲得しようとする意識が高く、自己の向上に対する意欲が旺盛であった。授業のない日も、情報収集のために全国各地に赴き、発表のためにかなり練習し、（発表はそれが推察できる内容のものであった）その熱意には、同じ仕事をする者として学ぶべき点が多くあった。

教える相手が教師というのは、ある種の不思議な体験でもあった。それは教わる者が授業担当者の意図を汲み取ることに非常に長けていて、教師の指示以上に授業活動を有効に行うことができるからだ。普段の日本語のクラスで、例えばグ

ループで練習する際などでは目の行き届かない学習者たちの行動が心配になることがあるが、この研修においては研修生が持つ自主性により教室活動がスムーズに、そして活発に行われることが常であった。

3－3－2．クラス運営に関して

全てのグループ作業において、それぞれの研修生が自分自身の得意分野を生かしてお互いを補い合い、目標を達成していた。

しかし、課題作成や発表などは、できるだけさまざまな人とグループを作るよう指示したが、気の合う者同士が常に同じグループで作業をする年もあった。このような場合、そのグループにおいて最も日本語力の高い研修生は、必然的に他の研修生から頼られることが多くなり、その結果、その研修生の発言力が強くなって意見が通りがちになった。一方日本語力の低い研修生は、自身のよいところを伸ばすことができず、また、発言力がある研修生も自分以上の実力を持つ他の研修生に学ぶ機会を失ってしまい、双方にとってデメリットが大きかったと思われる。この研修を「お互いに他者から学ぶよい機会と考え、年齢やキャリアにこだわることなくグループを作ることが研修成果をさらにあげることになる」という意識を持たせることが、研修効果を高めるために必要であると実感した。

研修の運営に関しては、指導管理教員の協力により円滑に進んだ。たとえば、授業意図や研修内容に関することが、指導管理教員により誤解されることなく研修生に伝わり理解された。他にも指導管理教員は研修生と共に授業に臨み一つひとつの授業に対する研修生の理解度や疑問、感想などを研修担当教員に伝えることがあった。そのことによって研修担当教員は、授業を研修生の希望や理解度に合ったものに変更（調整）したり、必要な内容を付け加えたりすることができた。

3－3－3．研修生の日本語のレベル差に関して

上級レベルの研修生と初級レベルの研修生との間には、特に会話力と授業理解力に関わる聴解力において、大きな差があった。初級レベルの研修生には「日本語教授法」を学ぶことよりも日本語力を磨くことが何よりも必要であり、それが日本語教授能力を高めるための第一歩であると思われる。[注17]

しかし、日本語力向上には、そのレベルに応じた日本語の授業を受けることが最も効果的であると考えられるものの、研修生同士がお互いの日本語のレベル差

を確認できてしまう方法は、研修生のプライドを傷つけることにつながる。[注18] そして、プライドを傷つけることは、広い意味での研修効果を下げることになる。

また、全体的に自分自身の日本語力向上を研修の目的の中で高い順位に置く研修生が非常に多い。ゆえに、研修生の満足度を上げるためには、個々の研修生の日本語力を向上させる授業は不可欠なものであると言える。

以上のことから、レベル差を意識させずに、日本語力を向上させる研修を考えることは非常に難しいと思った。[注19]

３－３－４．カリキュラム、授業科目に関して

研修生の境遇がある程度は想像できる研修担当教員としては、短い期間であっても研修生には、より多くの知識を得、技術を身につけてもらいたいという気持ちを持って研修を行うことになる。そのために「日本語教授法」の中のいくつかの授業で１時間の授業内容が非常に多いものとなってしまった。

また、練習や考えることにもっと時間を使ったほうが、より効果が上がるのではと思われる授業もあった。

研修期間が今後も同じような長さであれば、現在の授業科目を精査し、時間的な余裕を持たせたカリキュラムを考えてもいいかもしれない。

３－４．今後に向けて

１カ月にも満たない短期の研修が、どこまで現職教師の役に立つか明確にはわからないが、真剣に取り組む研修生の姿勢を見ると、研修期間がどんなに短くても研修生にとってはかけがえのない時間であり、現職教師が学ぶ機会を渇望していることがわかった。そう思うと、研修の内容をより有意義なものにしていこうと思わずにはいられない。

より有意義なものにするためには、カリキュラムを今以上に現場の実情にあったものにする必要があろう。そのためには、現場の情報をもっと収集し、研修生の教授活動、研修生が教えている学習者の学習姿勢、学校の基本的な設備などを理解することが必要だと思われる。さらに、日本での研修の成果が、その後の教育活動にどのように反映されたかを知ることも必要だろう。

日本語力向上の授業を増加させたほうがいいという研修生が多いが、研修生の日本語力にはかなりのレベル差が存在した。それに対応すべく工夫をしてみたが、

特に初級レベルの研修生にとって、満足できるプログラムにならなかったと言える。今後、研修生のプライドを傷つけずに、なおかつ満足度の高い日本語力向上の授業を行うためには、研修生の日本語力のレベル差をもう少し狭めたほうがいいのではないかと思われるが、(注19に記したが) それは主催者側によって決定されることであるため、積極的な解決方法とは言えまい。３－３－３で述べたように、日本語力のレベル差を抱えたままで研修効果を上げる方法を考える必要がある。

研修2009では、研修生が、研修担当教員にさまざまな質問をする時間や、授業以外のことについて話す時間を設けたほうがよいと思い、研修第１週目の放課後、そのような時間を設定し、オリエンテーションで研修生にその旨を伝えたが、話をしに来る研修生はいなかった。残念なことではあるが、研修１週目は上級レベルの研修生も日本語の聞き取りに苦しみ、自由に話すことができないという過去の研修生の談話から判断すると、もう少し日本語に慣れた段階でこのような時間を授業に取り入れていけると、研修生にとっても、研修担当教員にとっても、いいのだろうと思われる。

さらに、これまでの研修に参加した全ての日本語教員（研修生）が、韓国でお互いに知り合う機会を持てたらいいのではないかと思う。研修経験者が共通体験を持つ者として知り合うことは、自律的研修に役立つのではないか。

４．日本における短期研修のモデルコースについて

ここまでに報告した、釜山現職者短期研修の実施を踏まえて、今後文化外国語専門学校において行える海外の日本語を母語としない現職日本語教師を対象とした、日本における短期研修のモデルコースを以下のように提案する。

４－１．対象者

現職の外国人日本語教員のうち、以下の希望を持っている者を対象とする。

①教授力の向上（学習者の日本語運用能力を高めるための教育を目指す）
②日本語力の向上
③日本文化、日本事情のなど知識の補填及び新情報の獲得
④日本での滞在経験の獲得
⑤日本語教育事情及び情報の獲得

４－２．授業目的

４－１で述べた対象者の希望に合わせて、授業の目的を以下のように設定する。

①コース修了後、すぐに実践できるような授業改善のヒントを得る

②日本語会話力（発音、アクセントも含む）の向上

③日本への理解を深め、日本語教育に役立つ情報を得る

４－３．期間及び授業時間数

研修の期間を考えた時、対象者が現職の日本語教師であることを考えると、復職可能な範囲で日本に来られる期間ということになる。それぞれの地の季節休暇を利用することが最も現実的であることから[注20]、長くて１カ月と考えるのが妥当だろう。

週４日～５日、１日の時間数は４時間～５時間の範囲で考えると、１カ月で80～100時間に設定される。授業時間には、授業発表などのための準備時間も含めることにする。[注21]

４－４．授業内容及び科目

授業は、それぞれ４－２の授業目的に対応した以下の３科目を柱とする。

また、「日本語教授法」で扱う教材の体験により日本語がブラッシュアップされる、「日本語ブラッシュアップ」で体験した授業を教師の目で見直すことにより研修生自身の授業力向上に役立てるなど、どの科目も、他の科目の目的を達成するための要素が含まれている。

科目１：日本語教授法（目的４－２①）

科目２：日本語ブラッシュアップ（目的４－２②）

科目３：日本事情（目的４－２③）

それぞれの科目における授業項目については、以下の通りである。

科目１：日本語教授法

・文字（表記）の教え方

・文型の教え方

・会話の教え方

・読解の教え方

・聴解の教え方

・ゲームを使った日本語の教え方
・会話例文の作成の仕方
・本文の活用の仕方
・初級授業見学
・授業体験
・授業活動の見直し
板書、教師の言葉、教師のパフォーマンス　など

科目２：日本語ブラッシュアップ
・発音知識
・発音練習
発音／アクセント／シャドーイング／文型練習／シンクロリーディング／テキストリーディング／ディクテーション
練習　など
・仮名の美しい書き方
・聴解力強化
・会話力強化
・読解力強化
・文法補強
・調査発表

科目３：日本事情
・授業
伝統芸能・芸術について
茶道や歌舞伎など
現代日本文化について
日本の歌や芸能人など
日本のニュースについて
和食のマナーについて
日本の歴史について
日本の地理について
日本人のコミュニケーションについて
映画鑑賞

書道

・校外研修

日本独自の文化が学べる所

海外の若者にも人気がある所

個人ではなかなか見学できない所　など

5．おわりに

３回の研修を担当して韓国の中等教育機関で授業を受け持つ教員の方々と交流したことにより、海外での日本語教育の実情の一端に触れることができた。

私たちの本来の仕事は、日本語を母語としない外国人を対象とした日本語教師の養成、すなわち、海外で日本語を教える教師を育成することだが、実際に海外でどのような日本語教育が行われているかは、卒業生の情報提供とこれまでに数回行った海外での授業見学でしか知り得ていない。この研修は、海外の実情を知る貴重な機会であると同時に、海外で教える教師にとって真に必要なものは何かということを想像し、その実際を知る機会にもなった。

この研修を運営し、授業を担当したことは、現在行っている日本語教師養成科の授業にも影響[注22]を与えた。また、研修のカリキュラムを組み、新たに教材を作成する過程は、日本語教員養成について再考する機会にもなり、「教えることは学ぶこと」という言葉を身をもって実感した結果、日本語教育や教師養成に対する私たちの考え方に新しい視点をもたらしたと言えよう。

海外における日本語学習者数の増加により、ますます日本語教育の裾野が広がっていると言われているが、日本語教師の質的な向上を求め、現職者のさらなるレベルアップを目指す研修を希望する方たちも今後増えていくことだろう。

それを考えると、外国人に対する日本語教師教育を任されている者の一人として、今後の責任の重さを感じると同時に、今後も、日本語を母語としない現職日本語教師を対象とした研修プログラムを充実したものとするべく研鑽したい。

注

（1）この研修の韓国での正式名称は「日本語教師深化研修」である。

（2）本稿での指導管理教員の役割や仕事に関する記述は、日本でうかがい知ることができる範囲においての記述である。

（3）コマとは授業時間の数え方である。

（4）意見をいただいたのは、韓国の高等学校で日本語を教えている本校日本語教師養成科の卒業生と海外現職日本語教師研修を行っている他機関の関係者（＊山口大学の門脇薫先生、財団法人ひろしま国際センターの方）である。

（5）研修 2007 と期間は同じであるが、授業時間数が減少したことについて、主催者側から、「研修 2007 の研修生から、研修後午後の時間を教室外の自主的な研修活動に充てたいという希望が出されたため、授業を１日４コマで計算した」という説明があった。

（6）授業時間数の減少については、主催者側から研修機関の短縮にあるという説明を受けた。（基本的にこの研修は韓国の冬休みにあたる時間に設定され、旧正月前に帰国することが決まっているとのことである。）

（7）日本の伝統的な文化への理解を深めるとともに、韓国の中学生・高校生の関心事についての情報を入手することを、説明として口頭で付け加えた。

（8）③に関しては、研修生が実際に体験できることを増やすために、新たな校外研修を設け、授業外でも自主的に日本に触れられるように、日々新聞などに掲載される情報を研修生の教室に掲示した。

（9）日本の学校の授業見学は、訪問する小学校の校長の許可もおり、国語の授業を見学することまで決まっていたが、国語の授業担当教師の急病により、実現しなかった。

(10)「研修ノート」は研修 2008 より作成し配布し始めたもので、毎日の研修内容とそれに対する意見やその日に発見したことなどを記録できるようにしたものである。

(11) たとえば、意見を求めた時、対立した二つの意見が出され、そのどちらもが正しい場合、年齢が低い者が主張を弱めたり、翻したりすることがあり、また、正しくないと思われる発言が年長者から出た場合、正しくないという指摘が年少者からはできない場合がある。参加者が限られた活動において、抽選で平等に参加者を選ぼうと思っても、年少者が遠慮することがある。

(12) 敬語で話すことにより、日本語力向上に対する効果も期待した。

(13) 研修生同士が日本語でお互いを呼び合うときも「先生」をつけて呼んでいた。

(14) 教授科目転向者でも、大学などで日本語が副専攻であった場合は、中級以上の日本語力がある研修生もいた。また、上級者であっても研修開始直後は生の日本語に慣れていないことから、特に聞き取りに関して困難を感じる研修生が多かった。

(15) 本校の日本語教師養成科では、日本語力向上の目的でクラス内での母語使用は基本的に禁止している。

(16) 研修 2007 において、日本人の「外国人向けの話し方」により、プライドを傷つけられたと感じる研修生が存在したことも、このように対処し続けた理由の一つである。

(17) 初級レベルの研修生には、内容に理論的なものを含んだ「日本語教授法」の授業より、そ

の研修生に適した内容の「日本語ブラッシュアップ」の授業のほうが必要性が高いということである。

(18) 実際、研修 2007 において、研修生の日本語のレベル差が大きかったため、研修スタート時に「日本語B．Uのみ初級レベルの研修生を別クラスで行うことを提案してみたが、研修生の「面子」に関わる問題であるとの理由から、提案を受けた全ての研修生が同じ研修クラスでの受講を望んだため、全ての研修授業を１クラスで行った。

(19) この問題を完全に解決するには研修生の選抜において「日本語のレベルと研修目的の統一」が必要になるだろう。

(20) 研修者の環境によっては雇用者の理解や意図により、長期間の研修が可能とも考えられるが、ここでは長期休暇を利用した研修を考えた。

(21) 研修 2007、研修 2008、研修 2009 では、発表準備などの時間は授業時間外に設定したが、負担が大きかったため。

(22) 現職者に接することで、教師養成科の卒業生が将来対するであろう学習者像（その志向するものやニーズなども含む）や中等教育機関での勤務の実情の一端がわかり、その視点から考えることを教師養成科の授業に取り入れたり、日本にいることの大切さを意識付けるようになった。

資料１－１　2009　コース前アンケート（1/2）

釜山日本語教師研修　事前アンケート 2009

はじめまして。研修担当の福田と杉田と角本です。私たちは日本語科で留学生に日本語を教えると同時に、日本語教師養成科で日本語教師の育成に携わっています。

今回の研修を充実したものにするために、お手数ですが以下のアンケートにご協力ください。いただいた個人情報は、他の目的に使用することはありません。１１月２８日までにご返信ください。返信方法は、ファックスでお願いします。アンケートの回答は全て返信用紙にお書きください。

わからないことがありましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

では、皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

電話　０３－３２９９－２００６

Fax　０３－３２９９－２００６

１．お名前　　生年月日　　性別　　現在の所属機関

２．これまでに日本語を教えた経験のある教育機関はどれですか？　○をつけてください。

「その他」の場合は具体的にお書きください。

中学校　高等学校　大学　学院　個人教授　企業　その他

３．日本語教師歴（　　）年

４．日本語以外の科目の教授歴があったら、科目と期間をお書きください。

例）ドイツ語　10 年

５．現在担当している日本語の授業時間数

一週間に（　　）時間ぐらい

６．これまでに教えた経験のある内容はどれですか？　○をつけてください

「その他」の場合は具体的にお書きください。

①学習のレベル　　初級　中級　上級

②授業内容

文法　会話　読解　聴解　作文　漢字　日本語能力試験対策

その他（　　）

仕事内容

教材作成　テスト作成　学習評価　カリキュラム作成

教科書選定　教科書作成　その他（　　）

7．これまでに使用したことのある市販の教科書を挙げてください。

8．日本語はいつごろ、どこで、どのぐらい勉強しましたか。

例）　大学で　4年間　中級まで

9．日本語能力試験を受験した経験はありますか？

はい→　（　　）級　（　　）点　（　　）年受験

いいえ→　今のご自身の日本語の実力はどのぐらいだと思いますか。

10. 日本への留学／滞在経験はありますか？　（いつ、どのくらいの期間）

留学経験

滞在経験

11. 今回の研修の内容についてご希望がありますか。（　　）に○をつけてください。○が２つ以上ある場合は、希望の高い順に番号を書いてください。必要なら具体的に説明してください。

（　　）日本での日本語教育について情報を得る

(　　)授業に役立つ情報の収集

(　　)日本文化体験（具体的にどんなものですか)

(　　)授業技術の向上

(　　)教材作成能力の向上

(　　)日本語力の向上　　特に _____

(文法、作文、会話、読解、聴解、発音など、具体的にお書きください)

(　　)日本人日本語教師との意見交換

(　　)授業見学（どのレベルを見学したいですか)　　レベル_____

(　　)日本語の授業体験（どのレベルの授業を体験したいですか）レベル_____

その他にありましたら具体的にお書きください。

12. 現在教えていて困っていることを、具体的にお書きください。

13. 研修が終わったら、どんな変化をして帰国したいですか。

また何を得て帰国したいですか。

例）楽しい授業ヒントを得て帰りたい。
少しでもなめらかに話せるようになって帰りたい。

14. 日本滞在中に行きたい所、見たいもの、したいことをお書きください。

15. 最近の日本映画やアニメで見たものがあったら、タイトルをお書きください。

16. 最後に、「自己紹介と、この研修に参加した動機を」を600字程度でお書きください。

注　質問4，8，14，15は研修2007のアンケートにはなかった。
質問13は研修2007，2008のアンケートにはなかった。
実際のアンケート用紙は記入するためのスペースを設けている。

資料１－２　コース前アンケート集計（研修 2007、2008、2009）（1/3）

回答者数は研修 2007 は２１名、2008 は１９名、2009 は１３名

●これまでに日本語を教えた経験のある教育機関はどれですか？

	中学校	高校	大学	短大	学院	個人教授	企業	無回答
07	7	１７	0	0	2	1	2	0
08	3	１８	2	1	0	2	0	0
09	1	１２	2	0	1	1	0	1

注　これ以降の年度以外の数字の単位は人

●日本語教師歴

	1 年未満	1～4 年	5 年～9 年	10 年～19 年	20 年以上
07	1	１５	5		
08	1	4	１１	1	2
09	1	2	7	1	2

注　研修 2007 の内訳はこのスケールに合っていない

●日本語以外の科目の教授歴があったらお書きください。

	ドイツ語	フランス語	語学以外	なし
07	―	―	―	―
08	8	5	3	
09	2	4	2	2

注　研修 2007 はこの項目なし

●現在担当している日本語の授業時間数（一週間に）

時間	2 H	3 H	6 H	10 H	12 H	14 H	15 H	16 H	17 H	18 H	19H
07											
08	1					1	7	3	2	4	1
09		1	2	1	1	1	2	2	1	2	

注　研修 2007 は、10 コマ未満（2）、10～15 コマ（8）、16～20 コマ(10)、21 コマ以上（1）

	10 コマ未満	10～15 コマ	16～20 コマ	21 コマ以上
07	2	8	１０	1
08	1	8	9	0
09	3	5	5	0

注　研修 2007 のスケールに合わせて表示

●これまでに教えた経験のある内容はどれですか？

	初級	中級	上級
07	20	4	0
08	17	3	0
09	11	3	0

授業内容

	文法	会話	読解	聽解	作文	漢字	日能対策	教科書の内容
07	18	16	12	8	4	6	2	2
08	19	15	17	11	10	13	3	
09	12	6	11	8	5	10	1	

仕事内容

	教材作成	テスト作成	学習評価	カリ作成	教科書選定	教科書作成	無回答
07	10	14	12	3	8		
08	10	14	12	7	13	0	
09	7	8	10	0	5	1	1

注　カリ作成はカリキュラム作成の略

●これまでに使用したことのある市販の教科書を挙げてください。

大韓教科書　2007（11）、2008（13）、2009（8）
その他　2007（16）、2008（6）、2009（9）

注　その他の回答は省略

●日本語はいつごろ、どこで、どのぐらい勉強しましたか。

2007　この項目なし
2008　大学で（11）　2ヶ月、4ヶ月、1年（3）、2年（2）、4年（4）、10年
　大学院で2年　研修で2ヶ月（2）　420時間　教師養成課程1年
2009
　大学＋院　6.5年間　高級まで：1
　大学＋院　6年間：1
　大学4年間　上級：1　中級：1
　教育庁研修6ヶ月：1
　日本語副専攻6ヶ月　中級：5
　東西大学420時間　6ヶ月：1
　無回答：2

●日本語能力試験を受験した経験はありますか？

2007、1級受験（11）　合格（6）　受験経験なし（10）

資料１－２　コース前アンケート集計（研修 2007、2008、2009）(2/3)

2008、受験（９）　１級合格（５）　不明（３）　２級合格（１）
自分の実力は、１級程度（２）２級程度（２）　中級　初中級程度　初級程度（１）
2009、１級：合格５名　３級合格：２名
自分の実力は、２級以下（１）　中級（３）　初級程度（２）

●日本への留学経験
2007　１年以上の留学経験あり（２）　なし（19）　滞在経験あり（17）　なし（４）
2008　留学経験あり（１）２年　滞在経験あり（１１）
2009　研修　２ヶ月：２　１ヶ月．２　なし．５　無回答：１
滞在　観光．３　なし：２

●今回の研修の内容についてご希望がありますか。左から（2007）（2008）（2009）の順
（11）（14）（７）日本での日本語教育について情報を得る
（＊）（＊）（11）授業に役立つ情報の収集
（15）（19）（９）日本文化体験
（11）（15）（９）授業技術の向上
（７）（10）（４）教材作成能力の向上
（９）（18）（10）日本語力の向上
文法（１）（６）（０）、作文（４）（10）（１）
会話（５）（15）（６）、読解（０）（８）（１）
聴解（２）（11）（０）、発音（４）（10）（２）
（７）（10）（１）日本人日本語教師との意見交換
（11）（16）（３）授業見学
（＊）（＊）（１）日本語の授業体験
（３）（＊）（＊）模擬実習
（12）（＊）（＊）他の教育機関の見学
（10）（＊）（＊）効果的な例文作成能力の向上

注　（＊）はその年度のアンケートに項目が存在しなかったもの

●現在教えていて困っていることを、具体的にお書きください。
＜教師自身の問題　①日本語力＞（2009）
・日本語が難しい
・日本語の実力が足りないので、日本語で授業ができないこと
・会話力の減少
・漢字の読み方が難しい（６）
・文法が難しい　形容詞と動詞の活用（３）
＜教師自身の問題　①日本語力＞（2008）
・日本語会話力の不足

・やさしい日本語に慣れていない
・授業の全てを日本語でできないこと
・以前勉強した日本語を忘れていくこと
＜教師自身の問題　①日本語力＞（2007）
・自分の日本語力不足（５）
・会話能力不足（５）
・聴解力不足（３）
・教えているのが初級ばかりなので、自分の実力向上がなくなってしまう

＜教師自身の問題　②教授力、知識関連＞（2009）
・漢字と発音を教えること
・生徒たちの質問によく答えられないこと
・日本文化の質問に答えられないこと
＜教師自身の問題　②教授力、知識関連＞（2008）
・会話の指導が難しい
・学生から教科書以外のことを質問されること
＜教師自身の問題　②教授力、知識関連＞（2007）
・日本に関する知識不足（３）
・日本で実際に使われている日本語の表現をよく知らない
・教科書だけで授業をして、いつも似ている授業で、固くて楽しくない

＜資料不足＞（2009）
・教科書に出てくる日本文化関連の写真や資料が足りない）
・生徒に言葉や表現を覚えさせるのに役立つ写真や資料が足りない
・学生の興味を引く資料の不足
・授業資料の不足＜動画映像ＰＰＴ＞
＜資料不足＞（2008）
・文化を教えるときに資料不足（２）　歌とかICT資料
・日本の歌いやすい歌の教科書
＜資料不足＞（2007）
・教材不足（３）
・教える内容に合った動画があったらもっと生き生きした授業ができると思う

＜学生、教授環境の問題＞（2009）
・日本語と日本語の授業についての興味を持たせること
（ほとんどの生徒たちが授業に集中していないほうです。それで教授法についての工夫が必要だと思います。）
・クラスの人数が多い42名
・集中力の不足（２）
＜学生、教授環境の問題＞（2008）

資料１－２　コース前アンケート集計（研修 2007、2008、2009）（3/3）

・日本語に関心のない学生にいかに興味をもたせるか（６）
・日本語を難しいと思っている生徒にいかに興味を持たせるか
・学生が漢字がわからないこと、漢字の教え方（３）
・人文系高校で受験に関係ない科目としての限界を超えたい
＜学生、教授環境の問題＞（2007）
・学生たちの学習意欲が低いこと（５）
・最近は日本語より中国語に生徒の関心が移っていて、なぜ日本語を勉強しなければならないかと聞かれたりする（２）
・授業時間が少ないこと（２）
・１クラスの人数が多い 36～45 人
・発音教育。音声教材はあるが、学生個人個人の発音修正には役に立たない
・同じひらがなの単語のアクセントが難しい
・日本人教師が学校に来て授業に参加できればいい

●研修が終わったら、どんな変化をして帰国したいですか。また何を得て帰国したいですか。

（2009）
＜授業の質的向上＞
・日本語の授業に役立つ資料獲得（２）
・楽しくて面白い授業のヒント　（４）
・教科書にない資料や写真
・日本文化についてもっと知りたい→学生たちに日本の文化を教えたい

＜日本語力の向上＞
・日本語力の向上　　（２）
・会話が上手になりたい　（３）
・日本語を習うだけでいい
・少しでもなめらかに話せるようになって帰りたい　（３）
・会話に対する自信

＜日本文化、日本体験・経験＞
・日本文化体験　（２）
・日本文化についてもっと知りたい→学生たちに日本の文化を教えたい
・いろいろなものを見て帰る
・日本で日本語の授業をした経験
・いろいろな日本人と話した思い出

●日本滞在中に行きたい所、見たいもの、したいことをお書きください。（2009）

・日本の高校の授業、日本の高校訪問、日本の家庭（２）、東京の近所（３）

・東京のあちこちに行っていろいろなものを見たりしたりするつもり
・東京のいろいろな名所、東京のあちこちを歩きたい、東京近辺の有名な観光地（2）
・東京タワー、原宿、表参道、渋谷（2）、銀座・浅草、池袋、六本木、新宿、お台場（3）、日光（4）、箱根（2）、富士山（3）
・まつり（2）、美術館
・日本のおいしいもの、流行っているものを調べる
・着物を着る、歌舞伎が見たい、日本料理を作る

●日本滞在中に行きたい所、見たいもの、したいことをお書きください。(2008)
・九州、北海道（3）、東京（4）、東京郊外、横浜、京都、宮島、富士山、箱根、日光（2）、仙台
・美術館（2）、博物館、歴史博物館、市場、学校、祭り、成人式、ジブリ美術館、靖国神社、神社、寺、旅館、温泉、ディズニーL、歌舞伎、宮内庁、城、庭、大型スーパー、映画館
・現地の人しか知らない日本の文化
・日本人の友達を作って日本をもっと理解したい
・一般家庭で生活、日本の中学高校の授業
・東京で大学生・高校生がよく行くところ
・現代的なところ
・教材集め
・アクセント、発音「ん」「つ」

●最近の日本映画やアニメで見たものがあったら、タイトルをお書きください。(2009)

「かもめ食堂」「グーグーだって猫である」「ゲイシャの思いで」「今、会いに行きます」「Swing Girls 」「NANA」「コナン」(2)「千と千尋の神隠し」(3)「となりのトトロ」「耳をすませば」「ハウルの動く城」(2)「猫の恩返し」「白い巨塔」「花より男子」「のだめカンタービレ」「ドラゴン桜」

●最近の日本映画やアニメで見たものがあったら、タイトルをお書きください。(2008)
「時をかける少女」(3)「ジョゼとトラと魚たち」(2)「ヒーロー」(6)「かもめ食堂」「東京タワー」「メゾン・ド・ヒミコ」「嫌われ松子の一生」「のだめカンタービレ」(2)「ただ君を愛してる」「さくらん」「下妻物語」「デスノート」「ピアノの森」「世界の中心で愛を叫ぶ」「雪に願うこと」「ちりとてちん」「朝の風景」「Shall we ダンス」「日本沈没」「今会いに行きます」「かんぞう先生」「となりのトトロ」
その他日本のドラマ

資料２　実施科目一覧

領域	科目名
教授法	会話例文の作成
教授法	本文の活用（発表活動あり）
教授法	日本語のゲーム
教授法	初級の授業見学
教授法	初級の授業見学の前に
教授法	授業見学後の後で（意見交換会）
教授法	選択式授業見学
教授法	授業体験
教授法	文型の教え方
教授法	会話の授業を考える
教授法	読解の授業を考える
教授法	聴解の授業を考える
教授法	表記（漢字）の授業を考える
教授法	作文の授業を考える
教授法	『楽しく話そう』模擬授業（発表活動あり）
教授法	教材論『新文化初級』について
教授法	教材論『楽しく聞こう』について
教授法	教材論「楽しく読もう」について
教授法	教材論『楽しく話そう』について
教授法	教材論『文化中級日本語Ⅰ』について
教授法	教材論『文化中級日本語Ⅱ』について
教授法（特別講義）	シャドーイングについて
教授法（特別講義）	クラスマネージメントについて
教授法（特別講義）	通訳翻訳科体験授業
教授法（特別講義）	通訳翻訳科科目説明
教授法（特別講義）	OPIについて
日本語ブラッシュアップ	仮名を美しく
日本語ブラッシュアップ	発音
日本語ブラッシュアップ	発音Ａ
日本語ブラッシュアップ	発音Ｂ
日本語ブラッシュアップ	読解・会話（発表活動あり）
日本語ブラッシュアップ	映画『ALWAYS 三丁目の夕日』
日本語ブラッシュアップ	上級会話好印象を与える話し方
日本語ブラッシュアップ	上級会話感情を込めて話す
日本語ブラッシュアップ	VTR 『プロジェクトX』
日本事情	日本の年末年始
日本事情	日本の政治とニュース
日本事情	鎌倉の歴史と観光
日本事情	伝統文化　歌舞伎
日本事情	日本の風景
日本事情	日本の歌
日本事情	人生の祝い事
日本事情	日本の芸能人
日本事情	茶道について
日本事情（校外研修）	江戸東京たてもの園・茶道実習
日本事情（校外研修）	茶道実習
日本事情（校外研修）	江戸東京博物館
日本事情（校外研修）	サントリー武蔵野ビール工場
日本事情（校外研修）	三鷹の森ジブリ美術館
日本事情（校外研修）	国会議事堂
日本事情（校外研修）	鎌倉
日本事情（校外研修）	凡人社
日本事情（校外研修）	原宿・渋谷（調査活動、発表活動あり）
日本事情（校外研修）	浅草　伝統菓子作り体験

07年	08年	09年
○	○	○
○	○	○
○	○	○
○	○	○
○	○	
○	○	
	○	
		○
	○	○
	○	○
	○	○
	○	○
	○	○
	○	○
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○	○	○
○	○	
		○
		○
○	○	○
○	○	○
	○	○
	○	○
		○
○	○	
○	○	
	○	
○	○	
○	○	
○		
○		
○		
		○
	○	○
○		
	○	○
		○
○	○	
	○	
	○	
	○	
○		
○		

資料３－１　釜山日本語教師短期研修　コース評価アンケート（1/3）

2009．１．２３

今後この研修を改善するために、皆さんの率直なご意見をお聞かせください。

まず、それぞれの授業終了後１の部分を記入し、最終日（23 日 4 時間目終了後）に２～18 を記入して、**修了式時に必ず提出してください。**

１　授業について、その内容と役立つかどうかについて、5段階で評価しコメントをお書きください。5 段階の評価は■に下の数字を書いてください。
（とても良かった→5、良かった→4、まあまあ→3、あまりよくなかった→2、ぜんぜんよくなかった→1）

授　業			評　価		
	科　目	時間	授業内容	役に立つか	コ メ ン ト
教授法	**授業体験**	1			
	授業見学	1			
	本文の活用	5			
	文型の教え方	3			
	会話の授業を考える	3			
	読解の授業を考える	2			
	聴解の授業を考える	2			
	表記の授業を考える	1			
	作文の授業を考える	1			
	ゲーム	1			

	会話例文の作成	**5**			

授　業			評　価		
	科　目	時間	授業内容	役に立つか	コ メ ン ト
日本語のブラッシュアップ	発音Ａ（発音改善の方法）	3			
	発音Ｂ（なめらかに話す）	2			
	会話　好印象を与える話し方	2			
	会話　感情をこめて話す	1			
	仮名を美しく	1			
	ＶＴＲ　プロジェクトＸ	2			
	読解・会話　R-25	3			

授　業			評　価		
	科　目	時間	授業内容	役に立つか	コ メ ン ト
日本事情	**武蔵野ビール工場（校外）**	3			
	江戸東京博物館（**校外**）	4			
	茶道について	1			

資料３－１　釜山日本語教師短期研修　コース評価アンケート（2/3）

	江戸東京たてもの園（校外） 茶道体験（校外）	3			

2.「このような授業があったらもっと良かった。」というアイディアがあったらお書きください。

3. 教授法・日本語のブラッシュアップ・日本事情（今回は校外研修）の四つの分野で研修を行ないましたが、
これらのバランスはどれくらいが望ましいでしょうか。合計100%になるようにお答えください。

教授法（　　）%　　日本語のブラッシュアップ（　　）%　　日本事情（　　）%

4. 授業担当講師の授業の進め方、話し方はいかがでしたでしょうか。（あてはまる所 ＋ に○をつけてください）

1．話すスピードは？

	はやすぎる	ちょうどいい	おそすぎる
福田	+	+	+
杉田	+	+	+
角本	+	+	+

2．説明は？

	わかりやすい	まあまあわかる	わかりにくい
	+	+	+
	+	+	+
	+	+	+

5　担当講師にアドバイスや苦情、何か一言など、何かあったら、何でもご自由にお書きください。

6. 今回の研修（授業及び授業外の時間）で必要な情報収集はできましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

a．充分できた　b．まあまあできた　c．あまりできなかった　d．全然できなかった

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

7 今回の研修で文化体験はできましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

a．充分できた　b．まあまあできた　c．あまりできなかった　d 全然できなかった

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

8 今回の研修（授業時間）で授業技術は向上しましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

a．充分した　b．まあまあした　c．あまりしなかった　d．全然しなかった

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

9. 今回の研修（授業時間）で教材作成能力は向上したと思いますか。（あてはまる所に○をつけてください）

a．充分した　b．まあまあした　c．あまりしなかった　d．全然しなかった

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

資料３－１　釜山日本語教師短期研修　コース評価アンケート（3/3）

10. 今回の研修で日本語力は向上しましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

a．充分した　　b．まあまあした　　c．あまりしなかった　　d．全然しなかった

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

11 今回の研修（授業及び授業外の時間）で教師間の意見交換はできましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

①研修生同士では、　a　充分できた　　b．まあまあできた　　c．あまりできなかった　　d．全然できなかった

②日本人教員とは、　a．充分できた　　b．まあまあできた　　c．あまりできなかった　　d．全然できなかった

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

12. 今回は授業見学を1回しました。授業見学の回数はどうですか。（あてはまる所に○をつけてください）

a．ちょうどよかった　　b．少なかった　　c．多かった

⇒ ご意見がありましたらお書きください。

13 楽しく教えられるヒントは得られましたか？　⇒　はい　／　いいえ

⇒ ご意見がありましたらお書きください。

14. 最初のアンケートで、「どんな変化をして帰国したいか」、「何を得て帰国したいか」を書いていただきましたが、それは達成できそうですか。
（あてはまる所 ＋ に〇をつけてください）

十分達成できると思う　　まあまあ達成できると思う　　あまり達成できないと思う　　ぜんぜん達成できないと思う

＋----------＋----------＋----------＋

15. もし今回、日本へ来る前に知っていればもっと良かったという情報があればお書きください。

16. 「研修ノート」は使いましたか。　⇒　はい　／　いいえ

「研修ノート」はあったほうがよかったですか。　⇒　はい　／　いいえ

17. こちらで紹介した「東京近郊の観光地」や「イベント情報」は役に立ちましたか。　⇒　はい　／　いいえ

18. その他、この研修に関して、ご意見がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

資料３－２　コース評価集計結果

教授法	表記（漢字）の授業を考える
教授法	会話例文の作成
教授法	初級の授業見学の前に
教授法	初級の授業見学
教授法	授業見学後の後で（意見交換会）
教授法	文型の教え方
教授法	会話の授業を考える
教授法	読解の授業を考える
教授法	聴解の授業を考える
教授法	選択式授業見学
教授法	授業体験
教授法	本文の活用
教授法	日本語のゲーム
教授法	作文の授業を考える
教授法	『楽しく話そう』模擬授業（発表活動あり）
教授法	教材論『新文化初級』について
教授法	教材論『楽しく聞こう』について
教授法	教材論「楽しく読もう」について
教授法	教材論『楽しく話そう』について
教授法	教材論『文化中級日本語Ⅰ』について
教授法	教材論『文化中級日本語Ⅱ』について
教授法（特別講義）	シャドーイングについて
教授法（特別講義）	クラスマネージメントについて
教授法（特別講義）	通訳翻訳科体験授業
教授法（特別講義）	通訳翻訳科科目説明
教授法（特別講義）	OPIについて
日本語ブラッシュアップ	仮名を美しく
日本語ブラッシュアップ	発音
日本語ブラッシュアップ	発音Ａ
日本語ブラッシュアップ	発音Ｂ
日本語ブラッシュアップ	読解・会話（発表活動あり）
日本語ブラッシュアップ	上級会話好印象を与える話し方
日本語ブラッシュアップ	上級会話感情を込めて話す
日本語ブラッシュアップ	映画『ALWAYS 三丁目の夕日』
日本語ブラッシュアップ	VTR　『プロジェクトＸ』
日本事情	日本の年末年始
日本事情	日本の政治とニュース
日本事情	鎌倉の歴史と観光
日本事情	伝統文化　歌舞伎
日本事情	日本の風景
日本事情	日本の歌
日本事情	人生の祝い事
日本事情	日本の芸能人
日本事情	茶道について
日本事情　（校外研修）	国会議事堂
日本事情　（校外研修）	鎌倉
日本事情　（校外研修）	凡人社
日本事情　（校外研修）	江戸東京たてもの園・茶道実習
日本事情　（校外研修）	三鷹の森ジブリ美術館
日本事情　（校外研修）	江戸東京博物館
日本事情　（校外研修）	茶道
日本事情　（校外研修）	原宿・渋谷（調査活動、発表活動あり）
日本事情　（校外研修）	浅草　伝統菓子作り体験
日本事情　（校外研修）	サントリー武蔵野ビール工場

07年	08年		09年	
3段階評価	5段階評価		5段階評価	
	授業内容	役に立つか	授業内容	役に立つか
	3.9	3.5	4.4	4.3
2.9	4.3	4	4.5	4.2
2.5	3.9	3.6		
2.5	4.7	4.4	4.2	4.1
2.4	4.2	3.9		
	4.4	4.1	4.4	4.6
	4.2	3.9	4.5	4.2
	4.2	3.8	4.1	4.5
	3.9	3.7	4.3	4.5
	3.9	3.5		
			4.3	4.5
2.8	4.3	4.2	4.5	4.5
2.4	4.3	4.4	4.6	4.2
	4.3	4.1	4.7	4.3
2.6				
2.3				
2.1				
1.9				
1.9				
1.9				
2.1				
1.8				
2				
1.7				
1.6				
1.7				
2.8	4.2	4.2	4.2	4.3
3	3	2.9		
			4.8	4.8
			4.8	4.8
2.9	4.4	4	4.4	4.2
	4.3	4.1	4.5	4.6
	4.3	4.2	4.5	4.5
3	4.3	4		
			4.2	3.8
2.8	4.2	4.1		
2.8	3.9	3.5		
	3.9	3.6		
3	3.8	3.7		
2.7	3.5	3.1		
2.8				
2.6				
2.6				
			4.6	4.6
	2.9	2.6		
	4.1	3.6		
	2.5	3.3		
	4.2	3.8	4.3	4.3
2	3.8	3.3		
	4.5	4.4	4.4	4.2
2.5			4.5	4.5
2.4				
1.3				
			3.6	3.6

資料３－３　コース評価アンケート　集計結果（1/3）

回答数　2007…22 名　2008…19 名　2009…13 名

質問3.　教授法・日本語のブラッシュアップ・日本事情（今回は校外研修）の四つの分野で研修を行ないましたが、これらのバランスはどれくらいが望ましいでしょうか。合計１００%になるようにお答えください。

2007	教授技術の向上	日本語力の向上	教師として必要な知識	日本文化への理解	その他
平均	１４	４３　４	１２　３	２０　４	
実際	２７	１７	１３	２２	８

注　「その他」はオリエンテーション、テスト、アンケート回答など

2008	教授法	ブラッシュアップ	日本事情	校外研修
平均	23. 4	35. 8	16 2	23. 8
実際	４１	２３	８	２８

2009	教授法	ブラッシュアップ	日本事情
平均	３６　１	３８　６	２５　３
実際	５０	２８	２２

質問6. 今回の研修(授業及び授業外の時間)で必要な情報収集はできましたか。(あてはまる所に○をつけてください)

	a. 充分できた	b. まあまあできた	c. あまりできなかった	d. 全然できなかった	無回答
2008	6	10	2	0	1
2009	6	5	1	0	1

⇒ どのようなことが不十分でしたか。　回答なし

質問7 今回の研修で文化体験はできましたか。(あてはまる所に○をつけてください)

	a. 充分できた	b. まあまあできた	c. あまりできなかった	d. 全然できなかった
2008	8	9	2	0
2009	7	5	1	0

⇒ どのようなことが不十分でしたか。

日本の歴史についての授業があったらいいだろうと思います。

質問8. 今回の研修(授業時間)で授業技術は向上しましたか。(あてはまる所に○をつけてください)

	a. 充分した	b. まあまあした	c. あまりしなかった	d. 全然しなかった	無回答
2008	6	12	1	0	0
2009	6	6	0	0	1

⇒ どのようなことが不十分でしたか。 回答なし

資料３－３　コース評価アンケート　集計結果（2/3）

質問9. 今回の研修（授業時間）で教材作成能力は向上したと思いますか。（あてはまる所に○をつけてください）

	a．充分した	b．まあまあした	c．あまりしなかった	d．全然しなかった
2008	9	10	0	0
2009	5	8	0	0

⇒ どのようなことが不十分でしたか　。　回答なし

質問 10　今回の研修で日本語力は向上しましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

	a．充分した	b．まあまあした	c．あまりしなかった	d．全然しなかった
2008	4	10	3	1
2009	4	9	0	0

⇒ どのようなことが不十分でしたか。　回答なし

質問 11　今回の研修（授業及び授業外の時間）で教師間の意見交換はできましたか。（あてはまる所に○をつけてください）

①研修生同士では、

	a．充分できた	b．まあまあできた	c．あまりできなかった	d．全然できなかった
2008	8	7	4	0
2009	7	5	1	0

②日本人教員とは、

	a．充分できた	b．まあまあできた	c．あまりできなかった	d．全然できなかった	無回答
2008	1	9	8	1	0
2009	1	6	4	0	2

⇒ どのようなことが不十分でしたか。　回答なし

質問 12. 今回は授業見学を1回しました。授業見学の回数はどうですか。(あてはまる所に○をつけてください)

	a．ちょうどよかった	b．少なかった	c．多かった
2008	10	7	2
2009	6	7	0

⇒ ご意見がありましたらお書きください。

2回ぐらいがいいと思う。

1週間に1時間授業見学していただけたら、もっと役に立つと思う。

初級IIの授業を見学したが、初級Iの授業も見たかった。

質問 13. 楽しく教えられるヒントは得られましたか？

	はい	いいえ	まあまあ	無回答
2009	11	0	1	1

⇒ ご意見がありましたらお書きください。

十分ではないですが。

資料３－３　コース評価アンケート　集計結果（3/3）

質問 14. 最初のアンケートで、「どんな変化をして帰国したいか」、「何を得て帰国したいか」を書いていただきましたが、それは達成できそうですか。

（あてはまる所 ＋ に○をつけてください）

＊両脇の答えの中間に回答した研修の答え

	十分達成できると思う	まあまあ達成できると思う	＊		あまり達成できないと思う
2009	6	5	1	1	0

質問 16. 「研修ノート」は使いましたか。

	はい	まあまあ	いいえ	無回答
2008	１０	項目の設定なし	9	0
2009	8	0	4	1

「研修ノート」はあったほうがよかったですか。

	はい	どちらでもよい	いいえ	無回答
2008	１２		4	3
2009	12	1	0	0

質問 17. こちらで紹介した「東京近郊の観光地」や「イベント情報」は役に立ちましたか。

	はい	ちょっと	いいえ	無回答
2008	１６	1	1	1
2009	13			0